



いきものの居場所づくり

— 白鳥庭園 名古屋市
熱田区 & 徳川園 名古屋市
東区 —

in まちなか

「なごやの まちなか 生物多様性緑化 ガイドライン」特集

いきものの居場所づくり in “まちなか” p.1 “まちなか”の自然も馬鹿にできない p.3 ガイドライン骨子 p.6

いきものの四季 p.7

チョウ編 p.31 トンボ編 p.51 野鳥編 p.59

2024年 3月

都市の自然のモノサシ研究会

モノサシ なごや
<https://monosashi758.org>

いきものの居場所づくり in “まちなか”

2023年3月、名古屋市は「なごやのまちなか 生物多様性緑化 ガイドライン」を公表しました。生きもののすみか・エサ場・休息場所への配慮を“まちなか”（都心とその周辺市街地で、西部の農地や東部の丘陵地を除いた範囲）でも進め、生態系を回復させたい！というネライです。（P.6 参照）

「生物多様性緑化」って何やら難しそうですが…、要するに“多様ないきものの居場所づくり”ってことですよ？

そこで、住宅・学校・事業所などのオープンスペースを活用した取組のヒントになるように、白鳥庭園・徳川園での経験をまとめてみました。

日本庭園 … 多様ないきものに“居場所”を提供

これまで、白鳥庭園（2016年～）、徳川園（2018年～）のいきもの調査を続けて来ました。私たちは当初、日本庭園のいきものといえばコイを思い浮かべる程度の認識でした。しかし調べてみると…

例えば白鳥庭園は、3ha 強の面積ながら 20ha 級の公園（鶴舞公園、瑞穂公園、天白公園）とほぼ同レベルのチョウの種数を確認しました。確認種数は調査を重ねるにしたがって増え、累計 34 種です。（P.5 参照）

トンボについては、白鳥庭園・徳川園ともに 20 種強を確認しました。これは三つの池を持つ鶴舞公園（25 種）には及ばないものの、外堀や御深井池など広い水面を持つ名城公園（18 種）を上回る水準です。特に水をテーマとする白鳥庭園は、池がいくつにも分かれて水際線の延長が長く、水辺の形状も多様で水辺植生も豊かです。その結果、トンボの個体数も多く、トンボの群舞を間近に見ることができます。（P.5、P.17～18 参照）

日本庭園は、限られた敷地の中に山から海に至る多様な地形・景観をギュッと凝縮しています。このため面積の割に多様な環境が形成され、多様ないきものに“居場所”を提供しています。日本庭園は、人々にとってだけでなく、いきものにとっても“まちなか”のオアシスなのです。

気配り管理で“おすそ分け”

白鳥庭園では、2017 年から「和風バタフライガーデン」づくりを進めています。和風（在来）の樹木や山野草には、チョウの食草・食樹（幼虫のエサ）や蜜源（成虫のエサ）がたくさんあります。チョウの好きな植物を植えれば、在来種による生物多様性緑化につながります。（チョウ編 P.31～参照）

私たちが意識しているのは、次の 3 点です。

① 食草・食樹（幼虫のエサ）を植えて、産卵・繁殖をうながす

白鳥庭園の梅林奥には、アゲハ類の食樹（幼虫のエサ）としてミカン類を植えました。葉っぱは、腹ぺこ青虫が旺盛に食べるため派手な虫食い状態です。そんな青虫も大半が園内の鳥たちに食べられ、ごくまれにしかチョウにはなれません。じゃあ一体誰のため、何のためにミカン類を植えるのか？ 考えてしまいますよね？ “いのちの循環”の輪をつなぐため…だと思います。

② 春から秋まで、蜜源（成虫のエサ）のリレーをつなぐ

従来の白鳥庭園では梅雨時～夏場の蜜源が少なく、この時期に個体数の落ち込みが見られました。このため、日当たりの良い池の西岸にノアザミを植えました。効果絶大で 10 種のチョウが訪れ、個体数の季節的落ち込みもなくなりました。また、9 月のハギと 11 月のツワブキの狭間を埋めるためフジバカマを植えたところ、渡り途上のアサギマダラはじめ 10 種が訪れました。

③ 選択的除草で、「雑草」も温存・活用

ヤブカラシというツル植物は、ツツジなど低木にからみつくため植込みの敵とみなされています。しかしアゲハ類にとっては、夏場の貴重な蜜源です。そこで白鳥庭園では、ヤブカラシの花期（ツツジの花の散った 6～9 月）にはヤブカラシの除草を手控えています。

カタバミ、スミレ、タンポポなど「雑草」とみなされて除草の対象となる草にも、チョウの食草や蜜源がたくさんあります。白鳥庭園では、これらを温存・活用するために選択的除草を行っています。（チョウ編 P.43～44 参照）

水辺があればトンボ来る♪

水草あればもっと来る♪ 樹林があればさらに来る♪

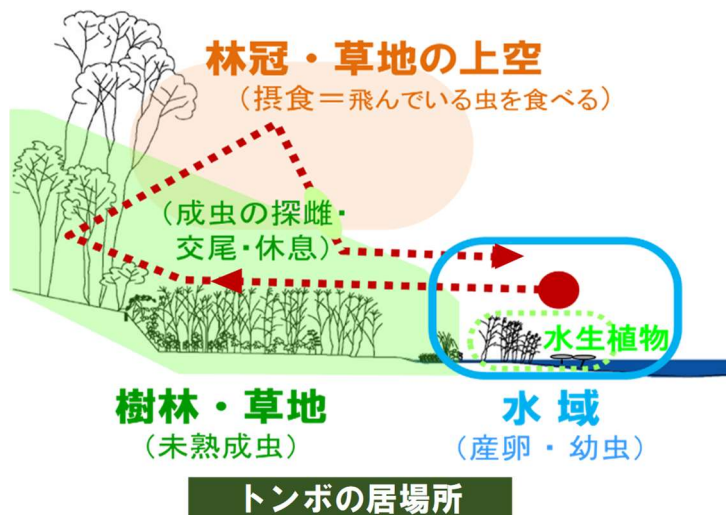
トンボは、ライフステージに応じて利用する環境を変えます。幼虫（ヤゴ）は水の中で成長し水草を利用して羽化します。羽化直後のトンボ（未熟成虫）は、水辺近くの樹林や草地で過ごします。成虫になると、摂食（小虫を食べる）・探雌・交尾などに水辺の植物を利用します。そして水草や水面に産卵します。

このため、水面／水草／樹林・草地をセットで用意してやると、多様なトンボが期待できます。

100年前、堀川と庄内川にはさまれたエリアは一面の水田でした。ところが現存する水面は、白鳥庭園を除けば志賀公園、中村公園、松葉公園そして多加良浦の弁天寺に池があるのみです。トンボのお宿は激減しました。

しかし諦めてはいけません。“まちなか”のトンボ拠点となっている白鳥庭園や徳川園も、たかだか20～30年前に造成された新しい池です。両園ともそれなりの規模の池からは3kmほど離れています。両園のトンボはどこから移住してきたのでしょうか？ 不思議です。しかし、移動距離が数百mにすぎないとされるイトトンボ類を含めて、多くのトンボが現に生息しています。

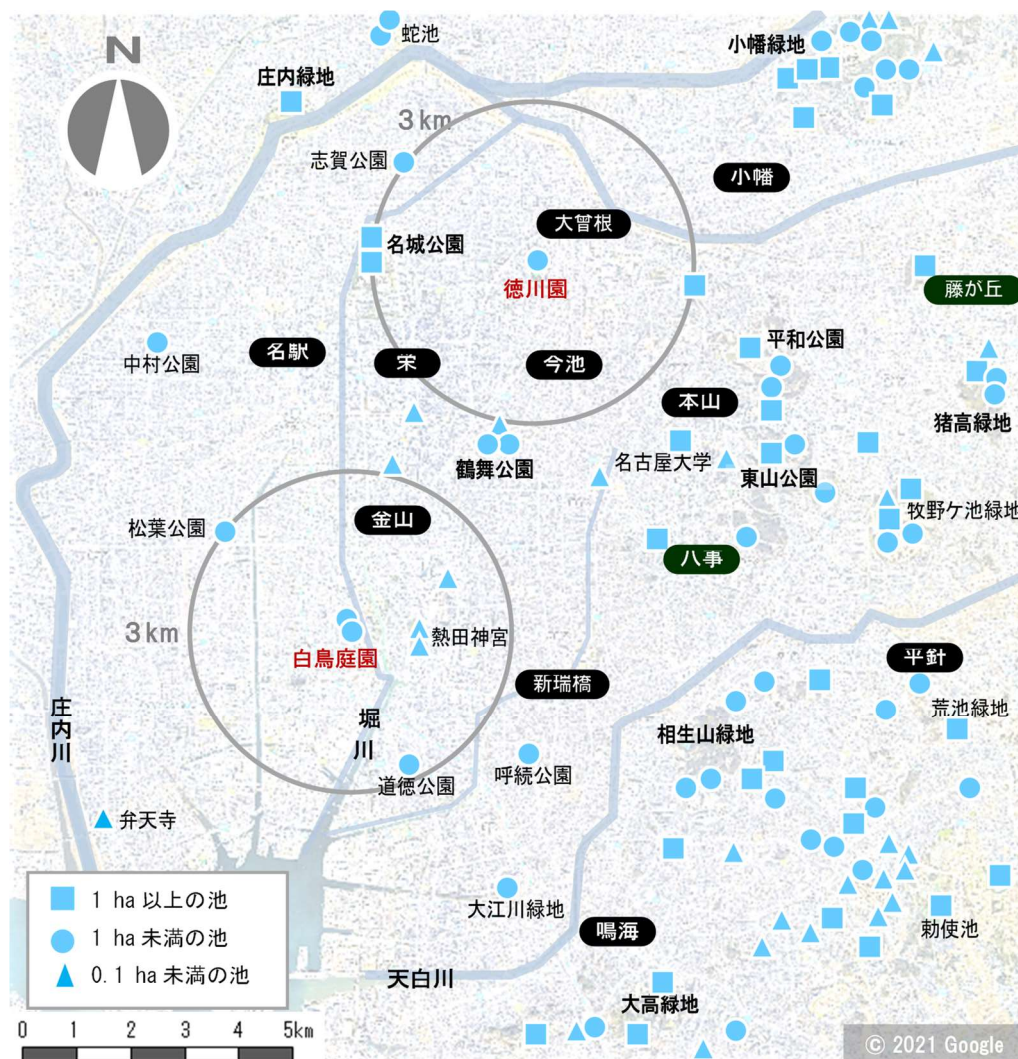
したがって、“飛び石”のように水辺を用意してネットワークをつないでやれば、トンボは必ずやってくると思います。(p.50 参照)



本格的なビオトープとはいかなくても、ちょっとした心配りで、いきものは随分すみやすくなります。

あなたも、簡単なことから始めてみませんか？

少しずつ“飛び石”（いきもの小さな居場所）を増やし、ネットワークにしていきましょう！



名古屋の池マップ

“まちなか”の自然も 馬鹿にできない

名古屋市内で、“いきもの”にたくさん出会えるのはどこでしょうか？
トンボ、チョウ、野鳥について調べてみました。

名古屋の緑地マップ



陸鳥 (P4の表を参照)

◇ 名古屋市最高峰 (198m) の東谷山を筆頭に、東山公園、大高緑地、庄内緑地、庄内川河口が上位を占めています (40 種以上)。

これに、他の東部丘陵大・中規模緑地や庄内川河川敷緑地が続きます (25 種以上)。

◆ 市街地では、名城公園、鶴舞公園 (30 種以上)、熱田神宮、大江川緑地 (25 種以上) が主要な拠点。小拠点 (10ha 未満の市街地公園) も概ね 20 種前後で、丘陵地の 10ha 未満緑地と同等のポテンシャルを持っています。

しかし、拠点が相互に離れていることが市街地の弱点。このため、拠点と拠点をつなぐ“飛び石” (小さな緑地) が必要です。特に堀川以西は、庄内川のパワーを市街地に呼び込む“飛び石”づくりが期待されます。

水鳥 (P4の表を参照)

◇ 庄内川河口 (45 種) を中心に、庄内川下流部、新川・日光川河口など藤前干潟周辺が拠点 (30 種以上)。これに、東部丘陵の大きなため池が続きます (20 種以上)。

◆ 市街地の拠点は、名城公園と瑞穂公園・山崎川 (20 種以上)。

瑞穂公園・山崎川は、2004 年度調査では 9 種、2008 年度調査では 11 種に過ぎませんでした。しかし 2014 年度調査では 20 種と大きく増加し、東部丘陵の大規模ため池なみとなりました。市街地河川も捨てたもんじゃない！と言えます。

堀川は市街地を貫く水辺の拠点軸ですが、水鳥・陸鳥ともに矢田川よりも多くの種数が見られます。

陸鳥・水鳥の種数（名古屋の主要緑地）

東部丘陵地															市街地公園																			
50ha以上										10ha以上					10ha未満					10ha以上			50~											
東谷山		小幡緑地	平和公園	東山公園	猪高緑地	牧野ヶ池緑地	荒池緑地	勅使池周辺	相生山緑地	大高緑地	明德公園	八事裏山	興正寺	天白公園	戸笠池・ほら貝池	成海神社・新海池	水上姉子神社	水広公園	鷺津山	城山八幡	中村公園	徳川園	白鳥庭園	高座結御子神社	呼続公園	大江川緑地	熱田神宮	瑞穂公園・山崎川	久屋大通公園	鶴舞公園	名城公園			
陸鳥	53	37	36	48	31	31	28	34	37	43	28	23	25	30	27	27	31	21	16	17	18	13	21	21	22	26	25	21	16	30	37			
水鳥	12	19	15	6	10	21	20	20	2	22	12	3	1	15	22	17	13	10	5	—	4	3	8	—	5	6	2	20	2	7	22			
陸鳥	35	29	20	21	48	31	26	33	38	43	16	27	15	18	23	15	24	20	17	16														
水鳥	16	10	14	16	29	16	19	33	42	45	33	32	26	25	18	7	18	12	12	10														
	東谷橋上流										新川河口					黒川					堀川上中流			堀川白鳥付近										
	竜泉寺付近										日光川河口					天白川河口					大江山河口					天白川緑地			矢田川橋緑地					
	松川橋付近										天白川河口					大江山河口					天白川緑地					矢田川橋緑地			戸田川					
	水分橋下流										天白川河口					大江山河口					天白川緑地					矢田川橋緑地			戸田川					
	庄内緑地										新前田橋下流					明徳橋下流					庄内川河口					新川河口			日光川河口					
	枇杷島大橋下流										横井山緑地					新前田橋下流					明徳橋下流					庄内川河口					新川河口			日光川河口
	横井山緑地										新前田橋下流					明徳橋下流					庄内川河口					新川河口			日光川河口					
	庄内川										その他					市街地					河川			河川										
	大規模河川															市街地河川																		

- ◆出典：名古屋市緑政土木局「名古屋の野鳥 2014」をもとに作成。但し呼続公園は「同 2008.4-2009.3」のデータを使用。
- ◆対象： 繁殖期（5-7月）および越冬期（12-2月）に確認された種数を比較。 渡り期等における一時立寄りの種数は含まない。
- ◆徳川園、白鳥庭園： 都市の自然のモノサシ研究会調べ。 2020-23年の平均値。但し（ ）内は累計。

同規模なら、市街地公園も丘陵地の緑地もポテンシャルは同等。
しかし、“まちなか”の緑は、拠点と拠点が離れてバラバラ！



“まちなか”のオープンスペース活用（生物多様性緑化）で
拠点をつなぐ“飛び石”を！

チョウ・トンボの種数（名古屋の主要緑地）

	東部丘陵地			市街地公園												
	50ha以上	10~	10ha未満	10ha未満			10ha以上				50~					
	平和公園	東山公園	猪高緑地	天白公園	中村公園	志賀公園	徳川園	白鳥庭園	呼続公園	道徳公園	大江川緑地	断夫山周辺	熱田神宮	瑞穂公園・山崎川	鶴舞公園	名城公園
チョウ	38	36		22			15	17			19	10	17	19		26
							(21)	(34)								
トンボ	27	37	36		12	12	20	24	22	11	20				25	18

チョウ

◇ 東部丘陵大規模緑地の平和公園、東山公園では 30 数種、中規模緑地の天白公園では 20 種強を確認しています。

◆ 名城公園、鶴舞公園、瑞穂公園などの市街地公園でも 20 種前後がみられます。

白鳥庭園は、1 年ごとの平均では 17 種（累計 34 種）を確認し、3ha 強の規模ながら 20ha 級の公園と肩を並べています。

チョウは、蜜源や食草があればめざとくやってきます。

“まちなか”の小さな庭やプランターでも、チョウの“飛び石”にできるのです。

ともすると“まちなか”は、東部丘陵に比べていきものが少ないように思われがちです。

しかし市街地公園のポテンシャルは、同規模の里山系緑地と遜色がありません。

白鳥庭園のチョウやトンボのように、ちょっと意識して“居場所”を用意してやれば、“まちなか”の小さなスペースでも、立派な“飛び石”（いきものの小さな居場所）になるでしょう。

チョウ

◆平和公園、東山公園：

株式会社ブレック研究所「東山公園および平和公園環境調査業務委託報告書」2008年。

◆天白公園、名城公園、鶴舞公園、瑞穂公園・山崎川、熱田神宮、断夫山周辺：

名古屋蝶の飛ぶまちプロジェクト（2013-14年調査）。

◆徳川園、白鳥庭園：

都市の自然のモノサシ研究会（2018-23年調査の平均値）。但し（ ）内は累計。

トンボ

◆平和公園、東山公園： チョウと同じ。

◆猪高緑地： 高崎保朗「名古屋市名東区猪高緑地の蜻蛉と蝶」

なごやの生物多様性4：89-106（2017年）。

◆その他： 松沢孝晋（都市の自然のモノサシ研究会）調べ。（2014-23年の累計）

トンボ

◇ 東部丘陵大規模緑地の東山公園、猪高緑地では 30 数種を確認しています。

◆ 市街地の鶴舞公園、大江川緑地、呼続公園など水辺植生の豊かな池では 20 種前後がみられます。白鳥庭園、徳川園でも 20 種強が安定して生育し、“まちなか”のトンボ拠点となっています。

一方、水辺植生の乏しい池では 10 種強にとどまります。

しかし見方を変えれば、コンクリートに囲まれた“まちなか”の池でも、10 種程度のトンボを呼ぶポテンシャルなら十分に持っているんだ！と言えます。

そして、水草をちょっと増やしてやれば、やってくるトンボの種数は確実に増えます。近場に樹林があればさらに好都合です。

なごやのまちなか 生物多様性緑化 ガイドライン (骨子)

名古屋市作成のガイドラインのうち

「生物多様性緑化のポイント (第3章)」と「レベル別チェックリスト (資料編)」を組み合わせると要約しました。

ガイドラインの本文は… <https://www.city.nagoya.jp/kankyo/page/0000162633.html>

	事前構想	施 工		維持管理
	コンセプト を考える	エサ場・すみか づくり	在 来 種 を植える	維 持 管 理 を工夫する
必須事項		<p>3点セット (樹林・草地・水辺) 脱ワンパターン</p>	<p>・ 侵略性のある植物を 使わない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 役割分担を決める ・ 取組みの趣旨を 近隣住民に伝える ・ 継続的に観察する
レベル1 知識がなくても…	<p>どんな生き物が 来てくれそうか?</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ まずはプランター緑化から ・ 花や実をつける植物 ・ 様々な種類の植物 ・ 草地や水場(水鉢)も 	<p>気配り管理で 鳥や虫におすそ分け</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 落ち葉を残す場所 ・ 草刈しない場所 草刈頻度を減らす場所を つくる
レベル2 ちょっと調べて…	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標種をイメージする 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植え方に変化をつける 花の色／高さ／開花時期 木の高さ／植える間隔 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 在来種を植える ・ 侵略的外来種を抜く 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農薬を できるだけ使わない ・ 有機肥料を できるだけ使う
レベル3 手間はかかるが…	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緑地のストーリー化 ・ グリーンインフラ機能を 高める (雨庭づくりなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 屋上緑化・壁面緑化 ・ ビオトープ池 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 在来種の割合を高める 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緑地をみんなで管理 ・ 緑地のPR (看板など) ・ 自然観察会

* **吹き出し内の表現** は、私たちの勝手なコメントです。

いきものの四季

@白鳥庭園

白鳥庭園で繁殖しているものだけでなく、
熱田神宮など近隣の拠点緑地で繁殖し時折やってくるもの、
冬になるとエサを求めて北国や山地から出稼ぎに来るもの、 渡りの途上に立ち寄って羽を休めていくもの …、
“まちなか” のオアシスには、多様な生きものが訪れます。
そんな姿を、
季節を追いながらご紹介します

【この報告書の写真提供】 飯田康博、加藤正嗣、川口暢子、河崎泰了、川島大次、早川雅美、松沢孝晋、村松万友美
【その他の参加・協力、過年度の写真】 浅井昭枝、浅井正明、安藤健吉、岡本明子、加藤恵一、川原田淳、川原田みどり、小西久充、鈴木竜也、
竹村明音、千村みずき、松尾慧樹、水谷由美子

白鳥庭園 マップ



西岸
日当たり抜群



北岸
日なたと木陰の境界



北門周辺
明るい日差し



東岸
木漏れ日
やさしい
緑のトンネル



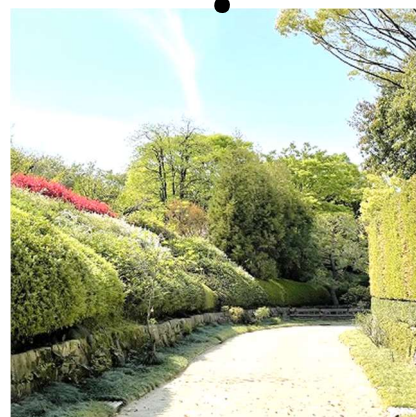
芝生広場
まばゆい芝生



笠亭・木曾橋周辺
半日蔭のしっとり空間



梅林奥
築山の裾の陽だまり



正門～大刈込 生垣と大刈込に挟まれて…



清羽亭西
池畔の茶庭

季節を問わず見かける



●アオスジアゲハ★
(食樹：クスノキ)



●ナミアゲハ
(食樹：ミカン科)



△ヤマトシジミ
(食草：カタバミ)



◆ツマグロヒョウモン★♂♀
(食草：スミレ科)



△ムラサキシジミ**★
(食樹：アラカシ等)

春～初夏



○モンシロチョウ
(食草：アブラナ科)



●クロアゲハ
(食樹：ミカン科)

秋によく見かける



○キタキチョウ*
(食樹：ハギなどマメ科)



△ウラナミシジミ*
(食樹：ハギなどマメ科)



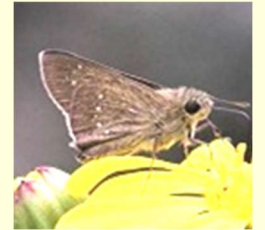
△ウラギンシジミ**★
(食草：クズなどマメ科)

夏以降は影が薄い

春先に最初に現れるが夏は影が薄く秋に再登場



▲イチモンジセセリ
(食草：チガヤ、ススキ)



▲チャバネセセリ
(食草：チガヤ、ススキ)

白鳥庭園のチョウ

- アゲハチョウ科
- ◆ タテハチョウ科
- シロチョウ科
- △ シジミチョウ科
- ▲ セセリチョウ科

- * 成虫で越冬
- ★ 北上種 (元来南方系だが、分布域を北へ拡大している)

運がいいと出会える



●ナガサキアゲハ★
(食樹：ミカン科)



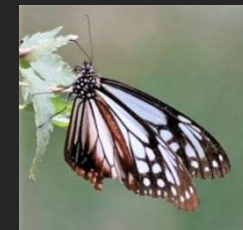
◆キタテハ*
(食草：カナムグラ)



◆ヒメアカタテハ
(食草：ヨモギ、カラムシ)



◆ミドリヒョウモン
(食草：スミレ科)



◆アサギマダラ
(食草：キジョラン)



△ツバメシジミ
(食草：シロツメクサ)



○モンキチョウ
(食草：シロツメクサ)



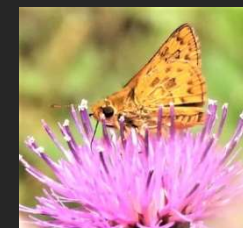
◆ルリタテハ*
(食草：ホトトギス)



◆テングチョウ*
(食樹：エノキ)



◆ゴマダラチョウ
(食樹：エノキ)



▲キマダラセセリ
(食草：ネザサ、マダケ)



△ルリシジミ
(食草：マメ科・タデ科等)

ほか

3 月

彼岸が近づくと、よく晴れた暖かい日にはチョウが飛び始めます。

最初に現れるのは、成虫で越冬していたチョウたちです。
地面や葉の上で日光を浴びて体を温めたり、花蜜を吸ったり…

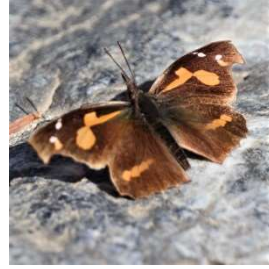
成虫越冬組のラインナップ



- ◆ 食草
- 蜜源 白・淡色系
- 蜜源 黄色系
- 蜜源 赤・紫色系



○キタキチョウ



◆テングチョウ



◆ルリタテハ



△ムラサキシジミ



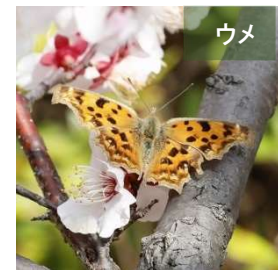
○キタキチョウ



◆テングチョウ



◆ルリタテハ



◆キタテハ

普段は樹液を吸うけれど…



アセビ（低木帯）の咲く池畔の園路

溪流脇の飛石は
チョウの日光浴に好適



サクラの咲く頃には…

モンシロチョウ（サナギで越冬）やモンキチョウ（幼虫で越冬）が羽化し、飛び始めます。



○モンシロチョウ



サクラ



○モンキチョウ

4月



オニタビラコ

○キタキチョウ



ハギ若葉

ハギ（葉）はキタキチョウの食草



タンポポ

○モンシロチョウ（成虫／幼虫）

アブラナ（葉）はモンシロチョウの食草



アブラナ

サクラの咲く頃、
モンシロチョウはナノハナの
葉に卵を産みつけます。

菜の葉にとまれ〜♪



- 🟢 食草
- 🟡 蜜源 黄色系
- 🔴 蜜源 白・淡色系
- 🟠 蜜源 赤・紫色系

サクラが散ると…

ナミアゲハ、アオスジアゲハ（サナギで越冬）や
ヤマトシジミ、ツマグロヒョウモン（幼虫で越冬）なども羽化し、飛び始めます。次第に春らしくなってきます。



吸水

●ナミアゲハ



ドウダンツツジ



ハルジオン

●アオスジアゲハ



ツツジ

●ナガサキアゲハ

黒系アゲハ類が吸蜜



池の西岸の春は
まず、背の低い草花が咲き始める



ホトケノザ

◆ツマグロヒョウモン♂



カタバミ

△ヤマトシジミ

ヤマトシジミの
食草・蜜源

5 月

ゴールデンウィークになると、アゲハ類が一気に増えます。

5月には、シャリンバイ、センダン、そしてノアザミへと蜜源リレーのバトンが渡されます。カタバミは、4月から10月頃まで咲き続けてヤマトシジミやモンシロチョウの蜜源になります。



- 食草
- 蜜源 黄色系
- 蜜源 白・淡色系
- 蜜源 赤・紫色系



● アオスジアゲハ



● ナミアゲハ



● アオスジアゲハ

アオスジアゲハ、ナミアゲハが吸蜜



● クロアゲハ



△ ヤマトシジミ



◆ ツマグロヒョウモン♀



● アオスジアゲハ



● ナミアゲハ



● クロアゲハ
(尾状突起あり)



● ナガサキアゲハ
(尾状突起なし)



ナミアゲハ産卵



若齢幼虫



終齢幼虫



サナギ

ノアザミは、多くのチョウに人気です。

5~7月(…10月)にかけて白鳥庭園では10種のチョウが吸蜜



◆ ツマグロヒョウモン♂



○ モンシロチョウ



クロアゲハ産卵



卵



若齢幼虫



終齢幼虫

アゲハ類の幼虫は、ミカン科の葉を食べて育ちます。

庭園南部(梅林の奥)には、ミカン科の樹木が植えてあります。

その若葉を食べて、アゲハ類の幼虫は育ちます。

しかし多くは鳥に食べられてしまいます。

チョウの卵が成虫になる確率はごくわずか、1~2%程度だそうです。



◆テングチョウの吸水

5月のある日、テングチョウが池の西岸の地面で群れになって吸水していました。
シダレザクラの葉の上では、ゴマダラチョウ（食草エノキ、蜜源は樹液）が日差しを浴びていました。
ホタルブクロの葉には、ベニシジミ（食草スイバ、ギシギシ）がとまっていました。
食草が見あたらないのどこからきたの？



◆ゴマダラチョウ



白鳥庭園に
初登場
(2023.05)
△ベニシジミ

6月

6月になると…

ソバやネムノキが咲きます。ノアザミにも、引き続き多くのチョウが訪れます。



- 食草
- 蜜源 黄色系
- 蜜源 白・淡色系
- 蜜源 赤・紫色系



○モンシロチョウ



●クロアゲハ



●ナガサキアゲハ



●ナミアゲハ



▲キマダラセセリ

吸蜜実績 4 種

黒系アゲハ類が吸蜜



○モンシロチョウ



△ヤマトシジミ

自生のネジバナにはモンシロチョウ、
搬入口の裸地に移植したシロツメクサには
ヤマトシジミがやってきました。

ミカンの木では、相変わらず腹ペコ青虫が旺盛な食欲。
スマレの周りでは、ツマグロヒョウモンの幼虫が…。



●ナミアゲハ終齢幼虫



◆ツマグロヒョウモン♀/幼虫



スマレ

留鳥

鳥の多くは春～夏が繁殖期。
この時期に日本に滞在しているのは、
留鳥（年中日本にいる鳥）と夏鳥（渡り鳥）です。

樹上好き（樹上採食）の留鳥は… ヒヨドリ、シジュウカラ、コゲラ。



ヒヨドリ（留鳥 i f）



シジュウカラ（留鳥 i s）



コゲラ（留鳥 i）

イモムシをゲット

樹上と地上を行ったり来たりしているのは…

スズメやハトなど街でもおなじみの鳥たちです。
主に地上で採食し、
巣づくりや休息・避難には樹木や人工物など高い所を利用します。

セミをゲット



スズメ（留鳥 i s）



キジバト（留鳥 s）



ドバト（留鳥 s）



ハシボソガラス
（留鳥 o）



ハシボソガラス（留鳥 o）



ムクドリ（留鳥 i f）



カワラヒワ（留鳥 i s）



ハクセキレイ（留鳥 i）



セグロセキレイ（留鳥 i）

トンボをゲット

夏鳥

夏鳥のツバメは、
春～夏の間、白鳥庭園にも滞在します。



ツバメ（夏鳥 i）

4月中旬～5月にかけては…
渡り途上で一時立ち寄る鳥もいます。



キビタキ（夏鳥 i）♂/♀



オオルリ（夏鳥 i）♂/♀



留鳥（水鳥）

季節によらず見かける水鳥たち。



アオサギ（留鳥 c）

羽：青みがかった灰色
嘴・脚：黄（繁殖期にはピンク）



カワセミ（留鳥 c）

♂：嘴の下部が黒 / ♀：嘴の下部が赤

飛び立つ姿は雄大



コサギ（留鳥 c） / ダイサギ（留鳥 c）

嘴：黒
脚：黒
足指：黄

嘴：黄（繁殖期は黒）
脚：黒



ゴイサギ

（留鳥 c）

↑ 成鳥
← 幼鳥



堀川上空はカワウの通勤ルート。
編隊が午前は北上、午後は南下します。

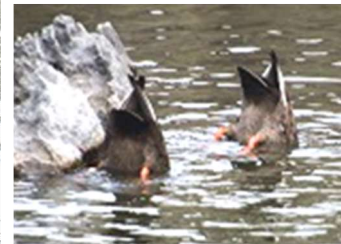
カワウ（留鳥 c）



鵜呑み！



仲の良い家族の姿に癒されますが、
カラスに卵を食べられたり、
ネコに襲われたり…
平和そうな庭園の中でも生存競争は厳しいようです。



カルガモ（留鳥 s g、水面採餌）雌雄同色、嘴の先端が黄。

夏鳥（水鳥）



ササゴイ（夏鳥 c）

トンボ観察スポット



上ノ池 (北岸)



中ノ池 (南岸)



クロイトトンボ産卵

イトトンボ 静止・産卵
(アサザなど浮葉植物)



コシアキトンボ羽化



下ノ池 (北)

シオカラトンボ、コシアキトンボ、ギンヤンマ 飛翔 (広い水面)
タイワンウチワヤンマ 止まりながら探雌・摂食 (水際の植物)

シオカラトンボ、チョウトンボ 飛翔

(水草の豊かな広い水面)

イトトンボ 静止・産卵 (スイレンなど浮葉植物)

アオモンイトトンボ 静止・産卵 (ヨシなど抽水植物)

アオモンイトトンボ 静止 (岸辺の草むら)

ヤゴの宝庫 ★ シオカラトンボ、コシアキトンボ 羽化
(フトイなど抽水植物)

オオアオイトトンボ 産卵 (水面に張り出した樹木)

クロスジギンヤンマ 飛翔 (樹林に囲まれた水面)

シオカラトンボ、コシアキトンボ 飛翔 (開けた水面)

アオモンイトトンボ 静止・産卵 (水際の抽水植物)

アオモンイトトンボ 静止 (岸辺の草むら)



清羽亭 (西)



チョウトンボ



アオモンイトトンボ交尾



下ノ池 (芝生広場前)

トンボカレンダー @白鳥庭園

春～秋までを通してよく見かけるのはシオカラトンボ、アオモンイトトンボです。

初夏～夏にはギンヤンマ、ショウジョウトンボ、コシアキトンボ、チョウトンボなどが飛び回り、秋にはアカトンボの仲間が登場します。

科名	種名	確認年			確認月						確認場所					
		2023	2016	写真	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	清羽亭西	上の池	中の池	下の池	その他
アイトトンボ*	ホソミオツネイトンボ	○														
トンボ	シオカラトンボ	○	○				...									
イトトンボ*	アオモンイトトンボ	○	○				...									
ヤンマ	クロスジギンヤンマ	○	○				...									
イトトンボ*	クロイトトンボ	○	○				...									
ヤンマ	ギンヤンマ	○	○				...									
トンボ	ショウジョウトンボ	○	○				...									
トンボ	コシアキトンボ	○	○				...									
イトトンボ*	ムスジイトトンボ	○	○				...									
トンボ	チョウトンボ	○	○				...									
トンボ	ウスバキトンボ	○	○				...									
サエトンボ*	台湾ウチワヤンマ	○	○				...									
ヤマトンボ*	オオヤマトンボ	○	○				...									
トンボ	オオシオカラトンボ	○	○				...									
ヤンマ	マルタンヤンマ			2022			○								○	
イトトンボ*	アジアイトトンボ	○					...									
カワトンボ	ハグロトンボ			2023			...	○								築山東麓
サエトンボ*	ウチワヤンマ			2022			...	○								...
トンボ	リスアカネ	○					...									
トンボ	コノシメトンボ	○	○				...									
トンボ	ノシメトンボ			2017			...		○						○	
トンボ	ナツアカネ		○				...									
トンボ	アキアカネ	○	○				...									
アイトトンボ	オオアオイトトンボ	○	○				...									
	24	19	17	4	5	8	13	...	15	15	9	16	11	17	17	

* 7月は2016年、2023年ともに調査なし。

確認あり

出現確率 35%以上

出現確率 70%以上

* 出現確率 = 確認回数 / 調査回数 (2023調査をもとに算定)
月別の出現確率は、各月の地区別出現確率の平均値。

4月 には、トンボはまだ多くありません。

そんな中で、他のトンボより一足早く羽化を始めるのは…

水際の抽水植物帯（ヨシ、ガマ、フトイなど）ではシオカラトンボやアオモンイトトンボ、クロイトトンボ、樹林に囲まれた池（下ノ池北部）ではクロスジギンヤンマです。



樹林に囲まれた池が好き
クロスジギンヤンマ



成熟個体



アオモンイトトンボ 雄/♀



抽水植物帯で休息・産卵・羽化

明るい池が好き。
未熟個体や♀はムギワラ色。
4～9月頃まで連続的に羽化
が続く（1年多世代型）。



未熟個体

シオカラトンボ



クロイトトンボ

浮葉植物の上で休息や産卵

5月 になると、トンボの種類も増えてきます。

6月 には、個体数がグンと増えます。

ギンヤンマをはじめ、コシアキトンボ、ショウジョウトンボ、ムスジイトトンボなども、次々と羽化を始めます。

6月には個体数がグンと増え、6月から9月中旬にかけてトンボの最盛期となります。



ギンヤンマ

広くて明るい池が好き。
広い縄張をパトロール飛行する。
浮葉・沈水・抽水植物や落ち葉など
に♂♀が連結して産卵。



成熟個体



未熟個体

コシアキトンボ

未熟なうちは腹部が黄色。成熟すると白くなる。
未熟個体は樹林で過ごし、成熟すると水辺に出現。
成熟した♂は水面上をパトロール飛行し縄張を争う。



成熟個体



未熟個体

ショウジョウトンボ

深紅だが、アカトンボ（アカネ属）の仲間ではない。
ショウジョウトンボは初夏から秋の初めまで水辺で見られる。
一方、アカトンボ類は夏の間は樹林や山地で過ごし、秋になると
水辺に戻ってくる。



オオシオカラトンボ 雄

シオカラトンボに似ているが、
樹林に囲まれた閉鎖的な環境
が好き。



ムスジイトトンボ

名古屋市内では、白鳥庭園の
ほか呼続公園など生息地が限
られる。

7月

夏場の日本庭園には、チョウの蜜源となる花は多くありません。

梅雨～夏の蜜源対策として、ノアザミ、ソバ、オニユリを植え、蜜源のリレーをつなぎました。ツル植物のヤブカラシ(藪枯らし)は、低木にからみついため樹木目線からは嫌われ者ですが、アゲハ類の夏場の蜜源なので、花期(6-8月)には除草を手控えています。* 選択的除草(P.43-44)



▲チャバネセセリ

吸蜜実績 10 種



ソバ

●ナミアゲハ



◆ツマグロヒヨウモン

吸蜜実績 4 種



ミカン

●ナミアゲハ幼虫



◆ツマグロヒヨウモン幼虫



ヤブカラシ

●アオスジアゲハ



オニユリ

●クロアゲハ



カタバミ

○モンシロチョウ



ハギ葉

△ヤマトシジミ

アオスジアゲハ、ナミアゲハが吸蜜

黒系アゲハ類が吸蜜

湿った地面にとまっているチョウを見かけることがあります。ストローのような口をのばして吸水しています。塩分補給や体温調節のためらしく、羽化直後のオスが多いようです。



●ナミアゲハ



△ヤマトシジミ



△ムラサキシジミ

ハギの葉*に食痕かじったのは誰？

- *ハギ(葉)
- キタキチョウ
 - △ウラナシジミ
 - △ツバメシジミ
 - △ルリシジミ
 - などの食草



オニユリ

7月 になると…

開けた水面では、ギンヤンマの数が増えるほか、 タイワンウチワヤンマ、 オオヤマトンボなども登場し、これら大型トンボのパトロール飛行が見られます。また、チョウトンボ、 ウスバキトンボなどユニークなトンボも目立つようになります。ハグロトンボは、5-6月頃に水草の多い流水で羽化したのち林内で過ごし、夏になると水辺に現れます。白鳥庭園ではまれにしかお目にかかれませんが、



パトロール飛行

ギンヤンマ



縄張監視

タイワンウチワヤンマ



チョウトンボ

チョウのようにヒラヒラ舞う



ウスバキトンボ

南方から、世代交代を繰り返しながら北上
お盆の頃に群れ飛ぶため精霊トンボとも呼ばれる



ハグロトンボ

白鳥庭園では10年ぶりの撮影
(@築山東麓) 2023. 0817

夏は、トンボの産卵の季節。

◆イトトンボ科/ヤンマ科など

産卵管を水草（浮葉植物、沈水植物、抽水植物）に突き刺して卵を産みつけます。

◆オオアオイトトンボ

水面に張り出した樹木の枝に産卵管を突き刺して産卵します。

◆トンボ科/オニヤンマ科/サナエトンボ科など

水面に卵を放出します。

トンボ科の大半は、水面に腹部の先端を打ちつけて産卵します（打水産卵）。

トンボ科の一部（ナツアカネ、リスアカネ、ノシメトンボ）は、空中から水面に卵を放出します（打空産卵）。

* 詳細は…

<https://monosashi758.org> > トンボ > トンボの環境利用



浮葉植物に産卵

クロイトトンボ



浮葉植物に産卵

クロスジギンヤンマ



打水産卵

ショウジョウトンボ



沈水植物に産卵

ギンヤンマ



抽水植物に産卵

マルタンヤンマ



打水産卵

チョウトンボ



白鳥庭園の気配り管理（池清掃法の改善）
池底清掃で出た藻類をすぐに処分せず、水際に1～2日放置してヤゴが池に戻れるようにしています。

空を自由に飛び回っているように見えるトンボですが、生きて行くのはなかなか大変です。
上左・上中は、セキレイに捕食されたトンボ。
上右は、ミズスマシに襲われています。
下右は、なんとシオカラトンボがイトトンボを捕食しています。



藻類の中に潜むヤゴ
下ノ池（北）や清羽亭西に多い。

9月に入り、彼岸が近づくと...

トンボの姿は全体的には少なくなりますが、アカトンボ類が増えてきます。
アカトンボの仲間は、初夏に平地の水田や湿地で羽化した後、夏の間は樹林や山地で過ごし、9月になると平地の水辺に戻ってきます。
樹林に囲まれた池では、オオアイトトンボが水辺近くに出てきて水面に張り出した木の枝に産卵します。

11月には、トンボの姿はほとんど見られなくなります。



オオアイトトンボ



アキアカネ



ナツアカネ



リスアカネ



コノシメトンボ

8月

8月の日本庭園も、チョウの蜜源は多くありません。

そんな時期を支えるのは、ヤブカラシや夏～秋に咲くオミナエシです。カタバミも地味ながら咲き続けます。



- 食草
- 蜜源 黄色系
- 蜜源 白・淡色系
- 蜜源 赤・紫色系



ヤブカラシ

●アオスジアゲハ



▲チャバネセセリ



オミナエシ

◆ツマグロヒヨウモン♂

吸蜜実績3種



◆ツマグロヒヨウモン♀

産卵



カタバミ

△ヤマトシジミ

ヤマトシジミの
食草・蜜源

お盆を過ぎると…、秋が少しずつ近づいてきます。

秋の蜜源の主役ハギが咲き始めます。

秋のチョウ（ウラナシジミ、ウラギンシジミ、イチモンジセセリ、チャバネセセリなど）も、目につくようになります。

春先に一番乗りしながら梅雨時～夏場には影の薄かったキタキチョウも、再び元気を取り戻します。

ムラサキシジミは、いつも茂みの陰で地味に過ごしています。

梢で銀白色の翅を
輝かせます



「選択的除草」への理解を求める看板



ハギ

○キタキチョウ

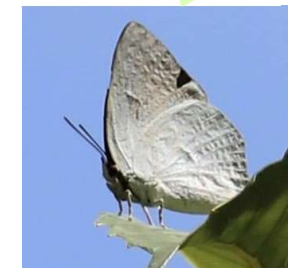


△ツバメシジミ



△ムラサキシジミ

樹液やアブラムシの
分泌液などが蜜源



△ウラギンシジミ

9月

9月に入っても…

ヤブカラシ、オミナエシやカタバミは重要な蜜源です。
ノアザミは5月から咲き続けています。中には、秋になっても花をつけてチョウを誘う株もあります。



- 食草
- 蜜源 黄色系
- 蜜源 白・淡色系
- 蜜源 赤・紫色系



「蝶の庭づくり」を伝える看板
(牧野植物図鑑の図を引用)



● ナミアゲハ



● アオスジアゲハ



△ ヤマトシジミ



◆ ミドリヒヨウモン



◆ ツماغロヒヨウモンみ

池西岸の柵の上で
いつも縄張を主張

残暑がやわらぐと…、秋のチョウの出番です。

ヤマトシジミが急増し、
ウラナミシジミ、イチモンジセセリなどがハギの花を訪れます。
梢では、ウラギンシジミが翅をキラキラ輝かせながら忙しく飛び回ります。



△ ウラナミシジミ



△ ツバメシジミ



○ キタキチョウ



蜜源は
腐果・獣糞

△ ウラギンシジミ

ヒガンバナにはナミアゲハがよく訪れます。
コムラサキ（食草ヤナギ）も初登場。
(2023年9月、@汐入の庭)



▲ イチモンジセセリ



▲ チャバネセセリ

シジミチョウ科、セセリ
チョウ科、シロチョウ科
の7種が吸蜜



● ナミアゲハ



◆ コムラサキ

10月

10月に入ると...

最初はハギ、そして次第にフジバカマへと蜜源の主役が移ります。



- 食草
- 蜜源 黄色系
- 蜜源 白・淡色系
- 蜜源 赤・紫色系

吸蜜実績 3種



◆ヒメアカタテハ

吸蜜実績 3種



◆ツマグロヒョウモン♂♀



△ツバメシジミ



△ヤマトシジミ

アリなどの外敵に対して黄色いツノ（臭角）からくさい匂いを出す



●ナミアゲハ 若齢/終齢幼虫



◆ツマグロヒョウモン幼虫

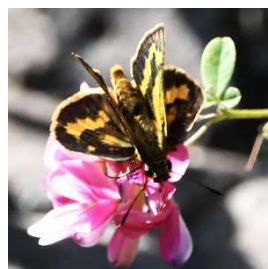


△ウラナシジミ

吸蜜実績 7種



△ヤマトシジミ
▲チャバネセセリ



▲キマダラセセリ



○キタキチョウ



△ウラギンシジミ♂

白鳥庭園のフジバカマには、すべての科にわたる10種が吸蜜に訪れました。南へ渡る途上のアサギマダラも、毎年立ち寄ります。

ただし、2022年にはヒヨドリバナともども病気で開花せず、2023年には残暑のため開花が1ヶ月ほど遅れ、チョウとのタイミングがうまく合いませんでした。

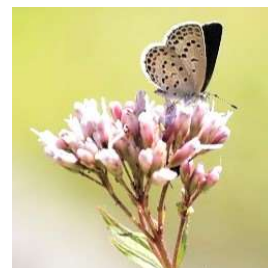
吸蜜実績 10種



●アオスジアゲハ



○モンシロチョウ



△ヤマトシジミ



◆ツマグロヒョウモン♀



◆アサギマダラ

11-12月

蜜源リレーのアンカーはツワブキ。

ツワブキは、10月の終わりから12月まで黄色い花をつけます。
ツワブキを訪れるチョウの代表格はキタキチョウで、秋の深まりとともに数を増します。
その一方でアゲハ類は、11月にはほとんど見られなくなります。



- 🍃 食草
- 🟡 蜜源 黄色系
- 🟠 蜜源 白・淡色系
- 🟣 蜜源 赤・紫色系



ツワブキ

○キタキチョウ



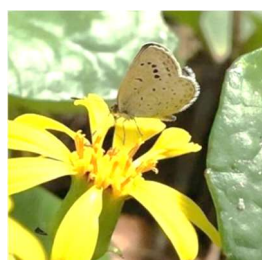
○モンシロチョウ



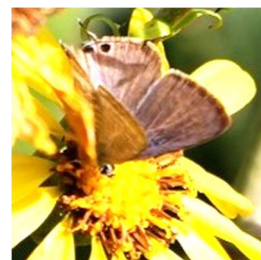
◆カタテハ



▲チャバネセセリ



△ヤマトシジミ



△ウラナシジミ



△ウラギンシジミ♂



△ムラサキシジミ



2023. 10. 22



2023. 11. 05

クスノキの葉に産みつけられたアオスジアゲハの卵が幼虫となり、なぜか掲示板の隅っこに移動。そしてサナギになりました。うまく年を越し羽化してほしいのですが…、4日後には姿を消していました。

アゲハチョウ科を除く4科の10種が吸蜜

12月に入っても、暖かい日にはチョウを見かけます。

小春日には、地面や葉の上でひなたぼっこをするチョウが見られます。
成虫で越冬するチョウ（キタキチョウ、ウラナシジミ、ウラギンシジミ、ムラサキシジミ、カタテハなど）だけでなく、
幼虫で越冬するチョウ（ツマグロヒョウモン、ヤマトシジミなど）を見かけることもあります。
それだけに、12月に入っても咲き続けるツワブキは貴重な蜜源です。



△ウラナシジミ



△ウラギンシジミ♀



△ムラサキシジミ



◆ツマグロヒョウモン♂



○キタキチョウ



紅葉が始まると… 国内の山地や樹林から、
エサを求めて市街地へ出稼ぎに来る鳥たちがいます。

留鳥・漂鳥



メジロ (留鳥 i f)



モズ (留鳥 i) ♂/♀



果物や花蜜が好きなメジロ、
梢から獲物をねらうモズ、
シジュウカラの仲間のヤマガラ、ヒガラ、
ヤブに潜むウグイス、
水辺近くで虫をねらうキセキレイ…。



ヤマガラ (留鳥 i s)



ヒガラ (漂鳥 i s)



ウグイス (漂鳥 i)



キセキレイ (漂鳥 i)

9~10月にかけて
南へ渡る旅鳥が
一時立ち寄ります。

旅鳥



サメビタキ (旅鳥 i)



オオムシクイ (旅鳥 i)



コサメビタキ (旅鳥)



エゾムシクイ (旅鳥 i)

冬鳥

木枯らしが吹く頃…
北の国から冬鳥(渡り鳥)がやって来て
3-4月に帰っていきます。
最初に飛来するのはジョウビタキ。



ツグミ (冬鳥 i f)



シロハラ (冬鳥 i f)



シメ (冬鳥 s)



ノビタキ (旅鳥 i)



センダイムシクイ (旅鳥 i)



ジョウビタキ (冬鳥 i f) ♂/♀



アオジ (冬鳥 i s) ♂/♀



ルリビタキ (冬鳥 i f)



エゾビタキ (旅鳥 i)

鳥たちの 越冬食

木の実 **f** は、虫 **i** (昆虫、クモ、ミミズ) や 草木の種子 **s** とともに、鳥たちにとって大切な冬の食料です。
色づいてもすぐには食べないで、1か月くらいたってから食べ始めるようです。

中でも赤い実は人気の食材。

ヒヨドリはじめムクドリ、メジロ (以上留鳥)、ツグミ、シロハラ、ジョウビタキ (以上冬鳥) も食べます。

メジロやヒヨドリは、サザンカ (10-12月)、ツバキ (12-3月)、ウメ (2-3月)、アセビ (2-4月)、サクラ (3-4月) の花蜜も好物です。



シロハラ

ナンテン

(鳥の食べ頃: 12-1月)



クロガネモチ

(鳥の食べ頃: 1-2月)



ヒヨドリ

ピラカンサ

(鳥の食べ頃: 1-3月)



マンリョウ

(鳥の食べ頃: 2月)



同左完食!
2019.0219



センリョウ

(鳥の食べ頃: 2-3月)



エゴノキ

(鳥の食べ頃: 9-11月)

ヤマガラ

(果肉を除いて種子を食べる)



シジュウカラ

サルスベリ

(鳥の食べ頃: 11-12月)

シジュウカラ、
スズメ、メジロ、ツグミなど



ユリカモメ

クスノキ

(鳥の食べ頃: 11-12月)

ヒヨドリ、ムクドリ、キジバト、
ユリカモメ、カラス



メジロ

コゲラ

カキノキ

(鳥の食べ頃: 11-1月)

ヒヨドリ、ムクドリ、メジロ、ツグミ ほか
昆虫食のはずのコゲラも…!



ヒヨドリ

センダン

(鳥の食べ頃: 12-1月)

ヒヨドリ、ムクドリ



カエデ類

(鳥の食べ頃: 1-2月)

シメ、イカル、
シジュウカラ



メジロ

サザンカ (花期: 10-12月)



ヒヨドリ

ツバキ (花期: 12-3月)



メジロ

ウメ (花期: 2-3月)



ヒヨドリ



メジロ

アセビ (花期: 2-4月)



ヒヨドリ

アオモジ (花期: 3-4月)

冬鳥（水鳥）

暮れから2-3月頃まで…

寒い北国から冬鳥（水鳥）が飛来します。



ユリカモメ（冬鳥 c）

群れで飛び回ったり泳いだり、
橋の上で休息したり、

外周のクスノキをつつきに出かけたり…、忙しい鳥です。
2021年1月には、氷の上に並んでいました。

種名 ほぼ毎年見かける鳥
種名 白鳥庭園・徳川園に
飛来実績のある鳥

- i 昆虫食
- c 肉食・魚食
- o 雑食
- f 果実食
- s 種子食
- g 葉・茎食

水面採餌ガモ（淡水ガモ、陸ガモ）
カルガモ、マガモ、コガモ、ハシビロガモ等。

水面で水を吸い込み、浮いている水草等を採餌。
浅瀬で顔だけ潜って水底の水草を食べたり、
歩いて陸上の植物を食べることも（歩行は得意）。
脚は胴の中央。遊泳中は尾羽が高く上がる。
助走せず、いきなり垂直に飛び立つ。
川や池が主だが、河口付近の海にもいる。



マガモ 雌雄
(冬鳥 s g、水面採餌)

水面をペチャペチャやりながら
エサをとりますが、
茂みに首を突っ込んでドングリ
を食べることもあります。

潜水採餌ガモ（潜水ガモ、海ガモ）
キンクロハジロ、ホシハジロ等。

水に潜り、水底の水草を水ごと吸い込んで採餌。貝類も食べる。
体はずんぐりで、脚は胴の後方（歩行は苦手）。
遊泳中は、尾羽が水面すれすれ。
飛び立つときは助走する。
海上が主だが、淡水にもやって来る。



キンクロハジロ 雌雄
(冬鳥 c i、潜水採餌)



ホシハジロ 雌雄
(冬鳥 s g、潜水採餌)



コガモ 雄
(冬鳥 s g、水面採餌)



ヒドリガモ 雌雄
(冬鳥 s g、水面採餌)



ハシビロガモ 雌
(冬鳥 s g、水面採餌)



オカヨシガモ 雌
(冬鳥 s g、水面採餌)

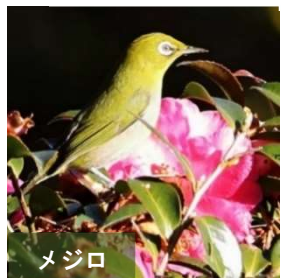
冬の白鳥庭園周辺（北隣の大夫堀、東隣の堀川）には、多様なカモ類が泳いでいます。
時折、白鳥庭園にも出張して来ます。

1-2 月

寒い冬、
いきものたちは
どう過ごしているのでしょうか？



花の蜜や木の実を食べるもの…



メジロ



ヒヨドリ

木をつつくもの…



コゲラ

着ぶくれするもの…



ハクセキレイ



縄張りをするもの…
(オオタカを追うカラス)

エサの宝庫を
見つけたもの…



スズメ



ジョウビタキ♀

地面を
あさるもの…



シロハラ

水を飲むもの…



シジュウカラ

水辺でエサをゲットするもの…



キセキレイ



ユリカモメ

誰かに捕食されたもの…



チョウ編

なぜ、チョウは飛ぶのか？

命をつなぐために、チョウは飛ぶ

チョウが命をつなぐための優先順位は
第1に、幼虫が育つ環境（**食草・食樹**＝幼虫のエサの存在）。
その次が、成虫がエネルギーを補給できる環境（**蜜源**の存在）。

幼虫の生育時期と食草・食樹の若葉の季節、
成虫の活躍時期と蜜源植物の花期、
これらがうまくかみあって、チョウの命はつながって行く。



5月、白鳥庭園・上ノ池西岸の和風バタフライガーデンにノアザミが咲き、様々なチョウが蜜を吸いに訪れる。
(吸蜜を終えたアオスジアゲハが、茶室・清羽亭を背にして飛び立った瞬間)

食草・食樹（幼虫のエサ）と産卵時期のマツチング



ナミゲハの産卵



卵



若齢幼虫



終齢幼虫



サナギ

多くのチョウは

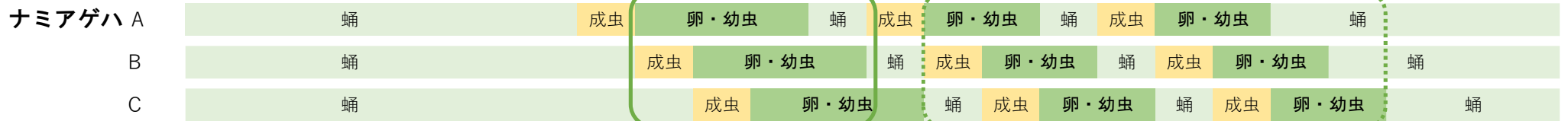
1年に2回～3回、卵から幼虫、蛹、成虫へと変化し産卵をする

チョウの幼虫は、そのチョウが好む若い葉っぱを食べて育つ。
成虫のメスは、幼虫が育ちやすい固有の若い葉っぱを見つけ、卵を生む。
食草がないと幼虫が育たない。幼虫が育たないと、そこで命は途絶える。
次世代に命をつなぐため、チョウの成虫は幼虫の育つ環境を求めて飛び続ける。

*各チョウの食草・食樹は、P.9を参照。

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----

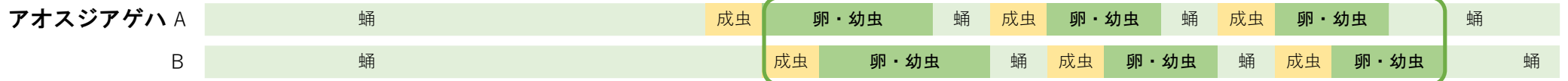
ミカンの若葉が出る環境の5月、7～9月に多く出現。



ミカンの新芽が多く出る時期

様々なミカン類の若芽

クスノキの若葉が出る5～7月と9月に多く出現。



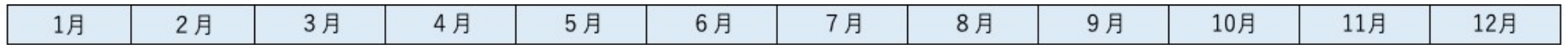
クスノキ ※クスノキは常に新芽を出し、落葉をいつも行っている。

ナノハナの若葉がある3月そして6月が多い。 夏季は食草のある場所へ移動し、10～11月に再び産卵しサナギで越冬。

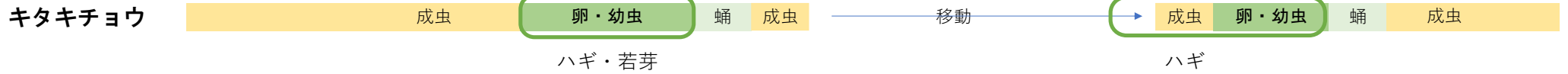


ナノハナ

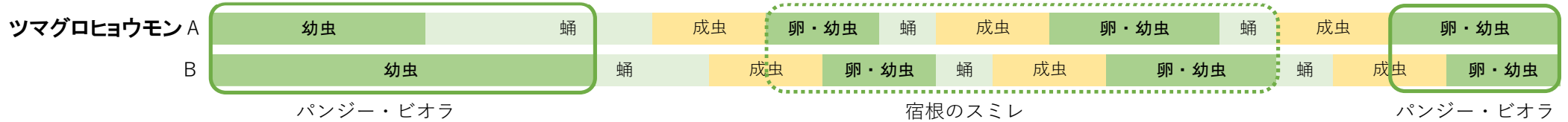
アブラナ類



ハギなどマメ科の新芽の3月に産卵したのち山へ移動し、秋に山から降りてくるといわれ、成虫のまま越冬する。



園芸種のパンジーなどが冬期も街中で確認できるが、夏の時期は宿根の野生のスマレなどで幼虫が育つ。



カタバミはどこでも育つ野草だが、8月が一番育つ時期であり、それに応じてヤマトシジミが多く出現

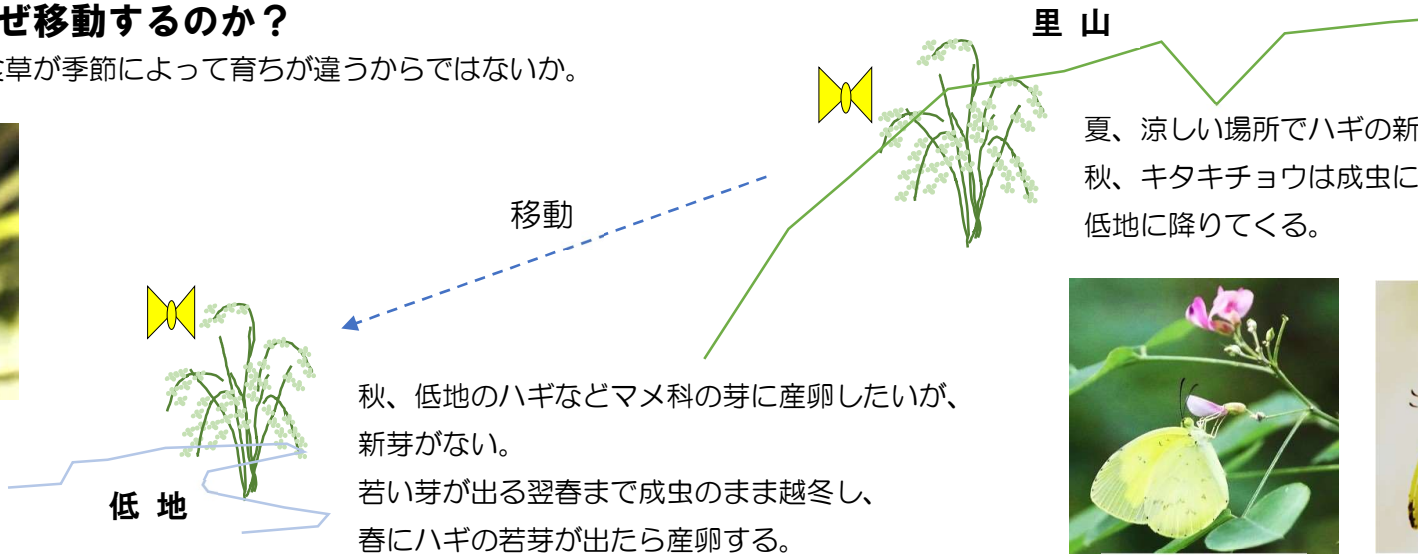


キタキチョウはなぜ移動するのか？

チョウ幼虫の餌となる食草が季節によって育ちが違うからではないか。



キタキチョウ



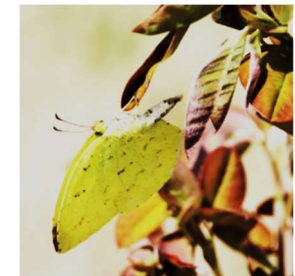
秋、低地のハギなどマメ科の芽に産卵したいが、新芽がない。

若い芽が出る翌春まで成虫のまま越冬し、春にハギの若芽が出たら産卵する。

夏、涼しい場所でハギの新芽が出て幼虫が育つ
秋、キタキチョウは成虫になり、里山が寒くなるころ低地に降りてくる。



キタキチョウ



ハギの若芽に産卵

春～秋までつなぐ 蜜源（成虫のエサ） のリレー

ノアザミやフジバカマのように多くの種類のチョウが訪れる花もあれば、
 ツツジ（黒系のアゲハ類）やカタバミ（ヤマトシジミ、モンシロチョウなど）のように限られた種類のチョウのみが訪れる花もある。
 蜜源が途切れなければ、春から秋までチョウの姿をみることができる。（P.10 参照）

4 月



クロアゲハ
ツツジ



アブラナ



モンシロチョウ
タンポポ



アオスジアゲハ
ハルジオン



ヤマトシジミ
カタバミ

5 月



クロアゲハ
シャリンバイ



アオスジアゲハ
シャリンバイ



アオスジアゲハ
センダン



ナミアゲハ
ノアザミ



ツマグロヒョウモン
ノアザミ

6 月



ナガサキアゲハ
ネムノキ



モンシロチョウ
ソバ



ナミアゲハ
ノアザミ



ヤマトシジミ
カタバミ



ヤマトシジミ
シロツメクサ



モンシロチョウ
ネジバナ

7 月



クロアゲハ
オニユリ



ツマグロヒョウモン
ソバ



イチモンジセセリ
ノアザミ



アオスジアゲハ
ヤブガラシ



ヤマトシジミ
カタバミ

夏場の蜜源は
多くない

【注】

黒字：従来から
白鳥庭園にある
茶字：新たに植えた
緑字：自生の野草を
温存・活用

8月



キタキチョウ

ハギ



アオスジアゲハ

オミナエシ



ツマグロヒョウモン

オミナエシ



アオスジアゲハ

ヤブガラシ



ヤマトシジミ

カタバミ

9月



ウラナシジミ

ハギ



アオスジアゲハ

オミナエシ



ナミアゲハ

ヒガンバナ



ナミアゲハ

ヤブガラシ



ツマグロヒョウモン

ヤブガラシ



ヤマトシジミ

カタバミ

10月



ウラナシジミ

ハギ



イチモンジセセリ

ハギ



ツバメシジミ

ヒヨドリバナ



アサギマダラ

フジバカマ



モンシロチョウ

フジバカマ



ヤマトシジミ

ノコンギク

11月



キタキチョウ

ツワブキ



ツマグロヒョウモン

ツワブキ



キタテハ

ツワブキ



モンシロチョウ

ツワブキ



ヤマトシジミ

ツワブキ



キタキチョウ

十月桜

花ではなく、樹液を蜜源とするチョウもいる（ゴマダラチョウ、ルリタテハ、コムラサキ、ムラサキシジミなど）。
また、ウラギンシジミのように腐果や獣糞を蜜源とするものもいる。

和風バタフライガーデンづくり

— 気配り管理で、チョウにもおすそわけ —

白鳥庭園では、2017年からチョウを意識した庭園の整備・管理を進めてきた。

コンセプトは「和風バタフライガーデン」！

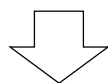
これまでの試行錯誤の結果（成果／悩み）を踏まえて、和風バタフライガーデンづくりの考え方・進め方を整理した。

目標設定

事前調査： 名古屋の公園・緑地には、どんなチョウがいるのか？
来てくれそうなのは、どんなチョウか？

<https://monosashi758.org> > チョウ > 名古屋のチョウ

目標設定： どんなチョウをターゲットにするのか？
そのために、どんな**食草**（幼虫のエサ）、
蜜源（成虫のエサ）を植えるのか？



四つの柱

- ① **食草・食樹**（幼虫のエサ）を増やして、産卵・繁殖を促す。
- ② 春から秋まで、**蜜源**（成虫のエサ）の**リレー**をつなぐ。
- ③ **選択的除草**で“雑草（自生の食草や蜜源）”も温存・活用。
- ④ **モニタリング**（継続的ないきもの調査）と**情報発信**。







- ◆ **蝶の庭**（上ノ池西岸）：池に面した日当たりの良い斜面
- ◆ **蝶の里**（梅林奥）：山里の雰囲気漂う日だまり
- ◆ **蝶の回廊**（園路）：チョウの既存の立ち寄りポイントを補強

1. 食草・食樹をふやして、産卵・繁殖を促す

1-1. 食草・食樹を選ぶ … 日本庭園の景観との調和

従来から植わっている食草・食樹だけでは十分ではないため、日本庭園としての景観を考慮しつつ新たに追加した。
また、自生してくる植物の中にも食草がある。通常は「雑草」として扱われがちだが、これらも活用している。

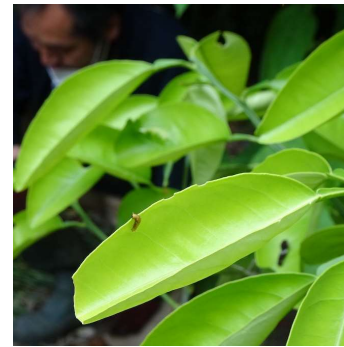
従来から白鳥庭園にある植物	新たに植えた植物	温存・活用している自生の植物
<p>○クスノキ (アオスジアゲハの食草) ○アラカシ (同 ムラサキシジミ) ○エノキ (同 ゴマダラチョウ、テングチョウ) ○ヤナギ (同 コムラサキ) ○ハギ (同 キタキチョウ、ツバメシジミ、ウラナミシジミ) ○フジ (同 ウラギンシジミ) △ススキ (同 イチモンジセセリ、チャバネセセリ)</p>	<p>○ミカン類、サンショウ類 (同 ナミアゲハ、クロアゲハ、ナガサキアゲハ) △アブラナ、ムラサキハナナ (同 モンシロチョウ) △ホトトギス (同 ルリタテハ) △セリ科 (同 キアゲハ)</p>	<p>△カタバミ (同 ヤマトシジミ) △スミレ (同 ツマグロヒョウモン) △シロツメクサ (同 モンキチョウ、ツバメシジミ)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto;"> <p>○ 樹木 △ 草本</p> </div>
<p>これらはいずれも、日本庭園になじみのある植物。チョウのために植えられているわけではないけれど、チョウの幼虫にとって格好のエサだ。 特にクスノキは、庭園外周をはじめ園内各所に配されており、白鳥庭園でアオスジアゲハが最も数多く見られる要因となっている。 ハギは、9~10月の蜜源としても多くのチョウを引きつけている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>クスノキ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>エノキ</p> </div> </div>	<p>ミカン類は在来の植物だが作物としての性格もあり、庭園景観にどうなじませるか工夫が必要。そこで、梅・桃・柿などの果樹によって里の雰囲気を持つ梅林奥（蝶の里）に、サンショウとともに植えた。“蝶の里”には、同じく作物系のアブラナ、ムラサキハナナも春の里景色として植えた。 低木で半日陰を好むサンショウは、“蝶の庭”、“蝶の回廊”でも、植栽の中に紛れ込ませる形で植えた。 山地系のホトトギスは、“蝶の里”、“蝶の回廊”の林縁部に植えた。 セリは春の七草に数えられる在来植物だが、繁殖力が強いいため他の植物とのバランスの保ち方が課題。そこで、影響の少ない清羽亭西側の水辺（緩流部）に植えた。</p>	<p>カタバミやスミレは「雑草」として除草対象にされがちだが、家紋や詩歌など古くから親しまれてきた野草であり、食草としても重要。そこで、日当たりの良い“蝶の庭”の下草とするため庭園内から移植した。 シロツメクサも「雑草」として除草対象にされがちだが、食草かつ蜜源となる。南搬入口通路（蝶の里）に範囲を限って移植した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>宿根スミレを日当たりの良い場所に植える</p> </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div>



ハギ



ミカンの苗木を片隅に
(蝶の里)



若葉で幼虫が育つ



日当たりの良い場所に、カタバミの面を
こんもりとつくる(蝶の庭)



ススキ



若葉を食べ、終齢幼虫まで育つ



ネットで幼虫の捕食防止



南搬入口通路を
シバ、カタバミ、
シロツメクサで緑被
(蝶の里)



水辺でセリの苗植え
(清羽亭西)



サンショウの苗植え(蝶の庭)
生育条件や景観を考え、
園路西側への移植を検討中。



林縁部に
ホトトギスを植える
(蝶の里、蝶の回廊)



4月：里の春を連想させる
ナノハナ、ムラサキハナナ(蝶の里)

1-2. 環境との調和

園内から移植

苗を入手しにくい野草（カタバミ、スマレ、シロツメクサなど）は、庭園内の他の場所から移植した。ある程度成長しているのので、すぐに食草として活用できる。

気配り剪定

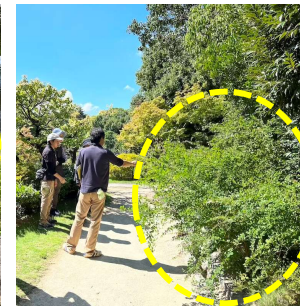
クスノキの切り株をそのままにして、ひこばえ（若い枝）の切り返し剪定を行い、若葉（食草）を確保した。ハギは、こんもりと花（蜜源）が咲くように、開花時期には園路に少しはみ出た支障枝なども剪定を控えた。



野草の移植作業



クスノキのヒコバエ



こんもりとしたハギ



竹炭による土壌改良



生育環境

植物ごとの性格を把握して、植える場所には気を配る。

特に日当たりには注意が必要。日光を好む植物を高木の足下など日陰に植えると大きくなる。花が咲かない。

反対に木陰が好きな植物を日向に植えると枯れてしまう。水がたくさん必要な植物を日向（乾燥地）に植えると水やりが大変。

（失敗事例）

▲ 芝生広場のケヤキの木陰から移植したスマレは、日当たりの良い「蝶の庭」エリアでは枯れてしまった。

→ 日当たりの良い正門前のスマレを移植した。

▲ 山崎川で採取したイヌガラシ（モンシロチョウの食草）の種を「蝶の庭」に播いたが、発芽しなかった。

→ プランターに播いて発芽させ、移植を試みたい（次年度の課題）。 * 成功事例があれば、お聞かせ願いたい！

▲ 柑橘類を「蝶の里」エリア（里の景：梅林奥）に植えたが、外周植栽の陰になり日照不足のため生育不良。

「蝶の里」エリアは土壌が粘土質で水はけが悪く、柑橘類の生育不良の原因の一つでもある。→ 土壌改良を実施。

土壌改良

チョウは若葉が豊富にある樹木に産卵する。若葉が食べられてもまた萌芽する健康な状態を保つために、土壌改良が必要。炭（木炭、竹炭）による土壌改良を行った。

低木なら、根の周りぐるり（環状）に、

高木なら、根の周りに縦穴（直径 10～20 cm、深さ 20 cm～50 センチ）を掘って、

掘り上げた土に対して 10～20%程度の炭（木炭、竹炭）を不均一に混ぜて、それを埋め戻す。

使用した炭は、庭園で出た廃竹材を竹炭にしたものを使った。使用する炭は、木炭・竹炭（低温で作った炭）が良い。

備長炭は土壌改良には不向き。BBQ 等に使用した炭（油や食材などが付着）は、土壌改良には使わないでほしい。

2. 春から秋まで、蜜源のリレーをつなぐ

2-1. 蜜源を選ぶ … 日本庭園の景観との調和

春から秋まで蜜源が途切れないように、新たな蜜源植物を植えるとともに、自生の蜜源植物も「雑草」扱いせずに温存・活用している。

(花期)	蜜源 (吸蜜するチョウ) ○ 樹木、△ 草本	備考
従来から白鳥庭園にある植物		
4-5月	○ツツジ (ナミアゲハ、クロアゲハ、ナガサキアゲハ、ほか)	ツツジ、シャリンバイ、センダンが順に咲く4月後半~5月は、アゲハ類が一気に増える。 ツツジ…園内各所、 シャリンバイ…蝶の里、 センダン…蝶の回廊 (東岸) 蝶の回廊 (溪流脇)、 芝生広場 こんもり咲くように花期には剪定を控える。 蝶の回廊 (北岸)、 蝶の庭、 清羽亭茶庭 蝶の庭、 蝶の里 晩秋の蜜源需要を一手に担っている。 蝶の庭、 園内各所
5	○シャリンバイ (アオスジアゲハ、ナミアゲハ、ツマグロヒョウモン、ほか)	
5-6	○センダン (アオスジアゲハ、ナミアゲハ、ほか)	
6	○ネムノキ (クロアゲハ、ナガサキアゲハ、ほか)	
8-10	○ハギ (キタキチョウ、ウラナミシジミ、ヤマトシジミ、イチモンジセセリ、ほか)	
9	△ヒガンバナ (ナミアゲハ、クロアゲハ、ほか)	
10-12	△ツワブキ (キタキチョウ、ツマグロヒョウモン、ヤマトシジミ、ほか)	
新たに植えた植物		
3-4月	△アブラナ (キタキチョウ、モンシロチョウ、ほか)	作物系。春の里景色を演出するために播種。 蝶の里 開花時の景観は良いが、夏場の高温で枯れてしまった。環境不適合? 蝶の回廊 (木曽橋東) 通常は除草対象。優秀な蜜源なので草原イメージの場所に植えた。 蝶の庭 作物系。夏の蜜源として、ナノハナ終了後に播種。 蝶の里 蝶の庭、 蝶の回廊 (東岸) 繁殖力が強く通常は除草対象だが、黒系アゲハの夏の蜜源として活用。 蝶の回廊 (東岸) 秋の七草。播種したが除草時に抜き取られたり、他の草に負けたり…うまく育たなかった。 蝶の庭 秋の七草。日当たりの良い草地に植えた。 蝶の庭 秋の七草。アサギマダラを期待して植えた (毎年来訪あり)。 蝶の庭、 蝶の里 フジバカマの近縁種。 蝶の庭、 蝶の里 景観・環境への適合ともに良好。 蝶の回廊 (北岸など)
4-6	△クリンソウ (クロアゲハ、ナガサキアゲハ)	
5-8	△ノアザミ (アオスジアゲハ、ナミアゲハ、モンシロチョウ、ツマグロヒョウモン、ほか)	
6-7	△ソバ (モンシロチョウ、ナミアゲハ、ツマグロヒョウモン、ほか)	
7	△オニユリ (ナミアゲハ、クロアゲハ、ほか)	
8-9	○クサギ (クロアゲハ、ナガサキアゲハ)	
7-10	△カワラナデシコ (チョウはあまり吸蜜しないが、秋の七草として植栽)	
8-10	△オミナエシ (アオスジアゲハ、ツマグロヒョウモン、ほか)	
10	△フジバカマ (アサギマダラ、ツマグロヒョウモン、キタキチョウ、ヤマトシジミ、ほか)	
10	△ヒヨドリバナ (アサギマダラ、ツマグロヒョウモン、ヤマトシジミ、ほか)	
10-11	△ノコンギクなどノギク類 (ヤマトシジミ、イチモンジセセリ、ほか)	

(花期) 蜜源 (吸蜜するチョウ) ○ 樹木、△ 草本	備考
<p>温存・活用している自生の植物</p> <p>3-4月 △タンポポ (キタキチョウ、モンシロチョウ、ほか)</p> <p>4-10 △カタバミ (ヤマトシジミ、モンシロチョウ、ほか)</p> <p>4-10 △シロツメクサ (ヤマトシジミ、モンシロチョウ、ほか)</p> <p>5-6 △ハルジオン (アオスジアゲハ、モンシロチョウ、ツマグロヒョウモン、ヤマトシジミ、ほか)</p> <p>7-9 △ヤブガラシ (アオスジアゲハ、ナミアゲハ、ほか)</p>	<p>通常は除草対象。春の風物詩&蜜源として温存・活用。セイヨウタンポポは除草。 <i>蝶の庭、蝶の里</i></p> <p>通常は除草対象。食草かつ蜜源なので園内から移植し活用。 <i>蝶の庭、蝶の里</i></p> <p>通常は除草対象。食草かつ蜜源なので園内から移植し範囲を限って活用。 <i>南搬入口通路</i></p> <p>通常は除草対象。花期には蜜源として温存、花期が終わったら刈り取る。 <i>蝶の庭、蝶の里ほか</i></p> <p>通常は除草対象。花期には蜜源として温存、花期が終わったら刈り取る。 <i>蝶の庭、大対辺</i></p>



4月：蜜源植物の苗植え



5月：ノアザミ



7月：オニユリ



10月：フジバカマ



6月：オミナエシ移植



9月：オミナエシ



6月：フジバカマの苗作り (挿し木で増やす)
譲り受けたフジバカマの原種



6月：ソバの種まき



6月：ソバの開花



9月：ソバの実の収穫



シロツメクサの園内移植 (範囲を限定して群落形成)
搬入口の裸地に
食草・蜜源となる背の低い草を植え草地化

2-2. 環境との調和

持続的に生育できるか？

- 宿根草、球根植物を選択する。
- 移植をする場合は、同じような環境条件で生育している植物を活用する。
- 植物の病害虫などによるダメージに対して、補植などの対応ができるように苗を育てておく。
- 手撒きや自動灌水装置などによる適切な水やりの実施。

チョウたちにも安心・安全な環境づくり

- 植物の害虫対策として農薬を使用することがあるが、白鳥庭園では、無農薬管理を実施している。
夏場：発生した害虫をハシでつまんで捕殺。
冬場：越冬している害虫の繭をとり除き、翌春の発生を低減させる。

課題

- 植えたい、増やしたい植物と「景観」「環境（生育条件）」との調和を図ることが大切だが、難しい。
- 蝶の発生と開花のタイミングを合わせたいが、手入れや病害虫、気象条件などに左右される。



無農薬管理
(害虫の捕殺)

3. 選択的除草で“雑草”も温存・活用

通常は「雑草」として除草対象となる自生の植物の中にも、食草や蜜源となるものが多い。

白鳥庭園では、花期には蜜源として活用し花期が終わったら抜き取るなどの配慮のもとに、自生の植物も温存・活用している。

3-1. 雑草を管理できるか？ 除草すべき草と食草・蜜源のコントロール

基本は、手抜き除草で管理する

残す植物と抜き取る植物を見分けられるようにする。

選択的除草…花の咲いていない時の植物の特徴を覚え、除草すべき草と食草・蜜源を区別しながら作業を実施。

夏場などは、機械除草を行うこともありかも

夏場の生育が旺盛な時は、機械除草を考えてもよい。

萌芽力の弱い植物や貴重な植物などには配慮が必要。

トラ刈り除草…エリアを一度に刈り取るのではなく、刈り残しをつくる。



温水除草

除草剤を使わない管理

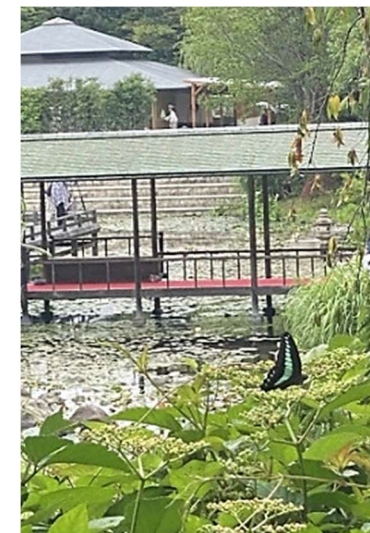
機械も除草剤も使わずに、効率的に広い面積の除草を行う新技術に温水除草がある。

温水除草…100℃近い温水をかけることで、雑草を枯らす除草。

専用ノズルを使いピンポイントに温水をかけることができるので、選択的に除草を行うこともできる。

例：「蝶の庭」に移植したカタバミが、繁殖力の強いイネ科植物に覆われて生育不良になった。

→ 冬期に温水除草を実施。



ヤブガラシとアオスジアゲハ

3-2. 活用できるか？ 繁殖力の強い植物のコントロール

除草時期をずらす

蜜源として活用できる植物の中には、「雑草」として除草対象になっている植物がある。

例えば**ヤブガラシ**。つるを伸ばしてツツジなど他の植物に絡みつき、藪を覆って木を枯らしてしまうほど旺盛に育つためこの名がついている。最優先除草対象植物である。

しかし夏場（7月～9月）のアゲハ類の貴重な蜜源だ。

そこで、花期の7月～9月は除草を行わず蜜源として活用。そして、花が終わった9月下旬に除草を行っている。

* 蝶の庭の場合、ドウダンツツジの花期（春）と紅葉期（秋）の間の端境期が、ヤブガラシの生育期

その時、ヤブガラシ以外の雑草は除草し雑然とした雰囲気は払拭。ヤブガラシの花々とそこに乱舞する蝶の景色をつくっている。

* 蝶の庭の場合、ガガイモもドウダンツツジに絡みつく。ガガイモの方が勢いが良く、ヤブガラシは圧迫されている。

ガガイモを訪れるチョウはほとんどなく蜜源として機能しないため、除去している。

種の飛散をコントロール

ノアザミや**タンポポ**、**シロツメクサ**など繁殖力の強い種類の植物は、

花後、種が結実する前に花ガラを取って種の飛散をコントロールする。

特にノアザミは繁殖力が強く、姿も大きくなり、葉がトゲトゲで触ると痛い等の理由で除草対象植物とされがちだ。

しかし蜜源としては、この上なく魅力的な植物だ。

したがって、花後、綿毛になる前に花ガラを摘み取って繁殖をコントロールすれば、

ノアザミは蜜源植物として大いに活用できる。



ノアザミ（綿毛）とアゲハ

4. モニタリング（継続的ないきもの調査）と情報発信

いきもの調査： 月2回のモニタリング（チョウの来訪状況調査、記録写真など）を、2018年から実施。（P.46～49 参照）

都市の自然のモノサシ研究会（有志団体）によるモニタリングに、管理者も参加。

説明看板： 蝶の庭・蝶の里での取組みについて説明看板を設置し、気配り管理をPR。

月例の写真展： 白鳥庭園では、毎月テーマを決めて写真展を開催している。

庭園の景色や植物だけでなく、鳥や蝶、トンボといった生き物たちもテーマに加えている。

写真展を通じて、バタフライガーデン活動の成果を、来園者に知っていただく。

子供向けプログラム：

「しろとりていえん しょくぶつ・いきものかんさつちょう」を年4回発行して、園内の季節ごとの生き物観察をすることで、生物多様性について学ぶきっかけとする。



選択的除草作業のPR看板



「蝶の庭」「蝶の里」説明看板



子供向けプログラム「しろとりていえん しょくぶつ・いきものかんさつちょう」



いきもの調査



写真展の開催

蝶の庭・蝶の里づくり と 個体数の推移

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計	
ナミアゲハ	2018	2	4 4	3 3 3	2 2		1 1			25	
	2020		4 4	1 1	3 1 1		2 2 3			22	
	2021		1 5	7 5 1 1			1 2 1			24	みかん・サンショウを植栽
	2022	2	10 2 2	3 3 1 2		1				26	竹墨による土壌改良
	2023		6 4 2	10 2 1 1 4 1		3 4 1				39	若葉を幼虫が食べ、葉っぱがない状態に
アオスジアゲハ	2018		13 3	3 14 7 2 1		1 3 4		1 1	53		
	2020		19 30	2 6 6 17 9	5 4 10 10				118	5月：シャリンバイとセンダンで多く確認	
	2021	4	12 7 1	10 11 10 10	4 6 4 5				84	8月：ヤブガラシがガガイモに負けた	
	2022	17	5 6 3	16 1 6 3	10 11 9 1				88	7月-9月：ヤブガラシは容認、ガガイモは除草	
	2023	10	10 6 3	7 4 8 8	6 13 10				85		
モンシロチョウ	2018	3	1	2 1					7		
	2020		2 2	5 3 1 1					14	アブラナ、ソバを播種したが生育不良	
	2021	1	7 2 6 3			2		1	22	アブラナは新しい種を播種、ソバ吸蜜確認	
	2022	4	4 8 2 3						21	ソバの花に吸蜜	
	2023	2	7 8 3 6 2						28		
キタキチョウ	2018	1					1 2		4		
	2020				1		1 1 8 13		25	晩秋、ツワブキで吸蜜	
	2021	2					7 2 21 3		35		
	2022	9					3 2 14 4 5		37	こんもりとしたハギで多く確認	
	2023	3		1		1 5	1 2 15		28	残暑が長引きハギやツワブキの花期がズレた	
ツマグロヒョウモン	2018		1 1		1			4 1	8		
	2020		2 2 3		3		2 2 2 1		17	スマレの移植	
	2021	1	5 3 1 3				1 3 4 3 3		27	ノアザミの効果	
	2022	3	3 1 4 1 4 2				4 1 4 2 1		30		
	2023	3	3 1 5 5 3 6 4 2				3 2 2 4		43	ノアザミ及びオミナエシの効果	
ヤマトシジミ	2018	2 2		2 2 3 2 4 4		1 7 27 14		4	74		
	2020		10 1	1 1 1 1 5 1		1 2 13 10 9			56	カタバミの移植	
	2021	3 3 1		1 4 5 2 9 6	4	12 42 10 18 3		123	カタバミが順調に繁茂		
	2022	3 1 3		5 9 6 8 5 8	15 9 11 6 7			96			
	2023	2 5 5		1 5 3 4 1 9 3 9 1 8 10 4				70	芝類の勢いにカタバミが負ける		

白鳥庭園 2023 越冬形態			合計	季節別										地区別															
				3月	4		5		6		7		8		9		10		11		梅 林	渓 流	池 の 西 岸	池 の 北 岸	池 の 東 岸	清 羽 亭	芝 生 広 場	正 門 ~	
				8日	23	7	21	4	18	2	16	6	20	3	17	3	14	5	19	曇									晴
種数(累計34種)			19 ★4 ☆11	2	8	5	5	8	6	5	5	7	8	7	6	6	6	5	2	9	10	8	10	8	9	9	9	7	
個体数			343	4	36	23	18	25	26	13	22	22	30	25	27	11	20	36	5	43	13	101	28	29	31	25	47	26	
アゲハ チョウ科	アオスジアゲハ	サナギ	85	★	10	10	6	3	7	4	8	8	6	13	10	★	★	★	9	2	27	6	4	13	8	13	3		
	ナミアゲハ		39	★	★	6	4	2	10	2	1	1	4	1	3	4	1	★	★	3	1	14	1	4	3	2	6	5	
	クロアゲハ		2		1	1	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★				1	★	1		
	ナガサキアゲハ			★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★				★	★	★		
	モンキアゲハ							★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★	★				★	★	★		
	キアゲハ							★																		★			
タテハ チョウ科	テングチョウ	成虫		★		★	★							★	★			★	★	★	★	★	★	★	★	★			
	ルリタテハ			★		★								★	★			★		★			★	★	★	★			
	クロコノマチョウ															★			★										
	キタテハ			★												★	★	★	★		★								
	アカタテハ				★													★						★					
	ヒメアカタテハ	幼虫				★		1			★	★						★	1		★						★		
	ツマグロヒョウモン		43	★	3	3	1	5	5	3	6	4	2	3	2	2		4	8	★	16	★	★	★	2	10	7		
	ヒメウラナミジャノメ													★															
	ゴマダラチョウ		2				★		★	★	★	2	★	★	★			★		1			★	★			1		
	アサギマダラ					★									★	★	★	★	★		★						★		
ミドリヒョウモン														★	★			★		★						★			
ホシミスジ						★												★											
コムラサキ														1															
シロ チョウ科	キタキチョウ	成虫	28	★	★	3		1	★	★	★	1	5	★	★	1	2	15	★	5	2	3	★	6	2	2	6	2	
	モンシロチョウ	サナギ	28	★	2	7	★	8	3	6	2	★		★			★	★	★	3	1	5	1	5	4	3	2	4	
	モンキチョウ	幼虫	1	★	★	1	★	★											★		1								
シミ チョウ科	ウラナミシジミ	成虫	8										★	★	★	5	1	2	★	★	1	★	★	6	1	★	★	★	
	ウラギンシジミ		14							★	2	★	★	★	1	★	6	5	★	1	★	★	4	1	2	3	3	★	
	ムラサキシジミ		10	★	★	★		1	1	★	3	★	3	1	★	★		★	1	3	1	★	3	1	2	★	★		
	ムラサキツバメ									★	★														★	★			
	ルリシジミ	サナギ					★		★		★							★							★		★		
	ベニシジミ	幼虫	1				1														1								
	ヤマトシジミ		70	★	2	5	5	★	1	5	3	4	1	9	3	9	1	8	10	4	10	3	34	7	2	3	2	5	4
ツバメシジミ		4	★				★	★		★	★	2	1	★	★	1			★	1	★	1			2				
クロマダラソテツシジミ																	★									★			
セセリ チョウ科	イチモンジセセリ	幼虫	3				★	★	★	★	2	1	★	★	★	★	★	★		★	★	2	★	★	★	1			
	チャバネセセリ		2											★	★	★	2				★	2							
	キマダラセセリ		1				★									1			★	★	1								

◆種数・個体数の推移

	2018	2020	2021	2022	2023
種数	18	17	17	17	19
個体数	232	281	366	397	343
ヤマトシジミ	76	56	123	96	70
アオスジアゲハ	54	118	84	88	85
ナミアゲハ	25	23	24	36	39
ツマグロヒョウモン	8	17	27	30	43
キタキチョウ	4	25	35	37	28
モンシロチョウ	7	14	22	21	28
イチモンジセセリ	7	38	3		
正門~	25	27	23	17	28
芝生広場	30	28	26	49	47
清羽亭	25	25	26	25	
池の東岸	19	24	28	41	31
北門付近	13	27	20	25	28
池の北岸	24	23	19	40	28
池の西岸	54	82	122	131	101
溪流付近	8	17	26	31	13
梅林	40	47	67	37	43

▶蝶の庭づくりに本格的に取り組み始めた2021年以降、確認個体数は従来よりも高い水準を維持している。かつて見られた季節的な個体数落ち込み(梅雨時~夏場)も、蜜源補強によりほぼ解消した。

▶2020年にアオスジアゲハ、2021年にヤマトシジミ、2022年にイチモンジセセリが激増している。それぞれの年の気象条件等の影響による変動と思われる。

▶2023年は、桜の開花(3月17日)も梅雨入り(5月29日)も平年より1週間早く、夏前倒しの陽気であった。7月後半からの猛暑は9月に入っても続き、彼岸が過ぎても30℃以上の夏日が続いた。このため秋の花の花期が後ろへ大きくズレ込み、秋のチョウの蜜源需要とかみ合わない結果となった。

数字：定例観察日の確認個体数。 ★ 定例観察日以外に確認実績あり(2023年) ☆ 他の年の同様の時期に確認実績あり

白鳥庭園 2019~23平均		越冬 形態	合計	季節別																
				3月	4	5	6	7	8	9	10	11								
種数(累計34種)			28 ★6	7	10	7	9	11	9	11	11	12	13	13	15	10	10	10	8	
個体数			327	8	27	22	24	13	24	15	17	16	16	20	32	32	25	25	12	
アゲハ チョウ科	アオスジアゲハ	サナギ	88	★	11	12	10	2	8	7	9	6	5	8	7	3	0.2	0.3		
	ナミアゲハ		30	★	0.3	5	3	3	3	3	2	1	1	1	2	3	1	★	0.3	
	クロアゲハ		5			2	0.8	0.2		0.6	0.2	★	0.2	0.2		★				
	ナガサキアゲハ		3			2	★	0.4		★	0.7	★		0.2	0.2	0.2				
	モンキアゲハ		★								★									
	キアゲハ		0.2								0.2									
タテハ チョウ科	テングチョウ	成虫	2	★		0.3	★	0.8	0.2						0.4	★				
	ルリタテハ		0.7	★			0.3								★	0.4				
	クロコマチョウ		★													★				
	キタテハ		★	★													★	★	★	
	アカタテハ		0.2		★													0.2		
	ヒメアカタテハ	幼虫	0.4				★		0.2			0.2	★					★		
	ツマグロヒョウモン		26		★	1	2	2	2	3	1	3	1	0.8	2	1	1	3	2	0.6
	ヒメウラナミジャノメ		0.2												0.2					
	ゴマダラチョウ		1					★			★	0.2	0.4	0.2	0.2	★				
	アサギマダラ		0.4				★									★	★	0.4	★	
	ミドリヒョウモン		★												★	★				
	ホシミスジ		0.2					0.2												
コムラサキ		0.2													0.2					
シロ チョウ科	キタキチョウ	成虫	27	★	3	0.8		0.2	★	★	0.2	0.2	1	0.2	0.8	2	4	10	4	
	モンシロチョウ	サナギ	19	★	3	2	1	5	3	4	1	0.2			0.4		★	★	0.2	
	モンキチョウ	幼虫	1	★	0.3	0.5		★	0.2											
シジミ チョウ科	ウラナミシジミ	成虫	6										0.2	★	1	1	3	0.6	0.6	
	ウラギンシジミ		12								0.4	0.4	0.4	0.4	3	3	2	3	0.4	
	ムラサキシジミ		7	★	0.2	★		0.6	0.6	0.4	0.6	1	1	0.6	0.2	0.4		0.4	0.6	
	ムラサキツバメ		★							★	★									
	ルリシジミ	サナギ	0.6				★		0.4		0.2									
	ベニシジミ	幼虫	0.2				0.2													
	ヤマトシジミ		82	★	1	2	4	1	2	4	2	3	4	5	3	9	16	11	9	5
	ツバメシジミ		2	★				0.2	0.2		0.2	★	0.4		0.8	0.4	★	0.2		
クロマダラソテツシジミ		★														★				
セセリ チョウ科	イチモンジセセリ	幼虫	13			★			0.2	0.2	0.4	0.6		2	6	3	0.2	0.2	0.2	
	チャバネセセリ		0.8											★	0.2	★	0.6			
	キマダラセセリ		0.2														0.2			

数字：定例観察日の確認個体数 ★：定例観察日以外に確認実績あり

◆春と秋に二つのピーク

チョウの出現は、春と秋に二つのピークがある。以前は夏場の落ち込み（M字の谷）が大きかったが、蜜源補強（蜜源のリレー）によって随分緩和された。

◆春先にいち早く姿を見せるチョウ

2~3月の暖かい日には、テングチョウ、ルリタテハ、キタテハ、キタキチョウ、ムラサキシジミなど成虫の状態越冬しているチョウたちが、まず姿を現す。

◆春~初夏に見かけるチョウ

桜の咲く頃になると、サナギで越冬していたモンシロチョウが飛び始める。

◆季節を問わず見かけるチョウ

モンシロチョウよりワンテンポ遅れて飛び始めるナミアゲハ、アオスジアゲハ、ツマグロヒョウモン、ヤマトシジミは、春から秋まで季節を問わず見かける。またムラサキシジミも、茂みの陰で地味ながらコンスタントに見かける。

◆秋によく見かけるチョウ

ウラナミシジミ、ウラギンシジミ、イチモンジセセリ、チャバネセセリなどは、秋になると目立つようになる。春の一番乗りながらその後影が薄くなるキタキチョウは、秋の深まりとともに再び数を増す。春からコンスタントに見かけるヤマトシジミも、秋になると急増する。一方、春~夏に主役を勤めたアゲハ類は、10月後半になると姿を消す。

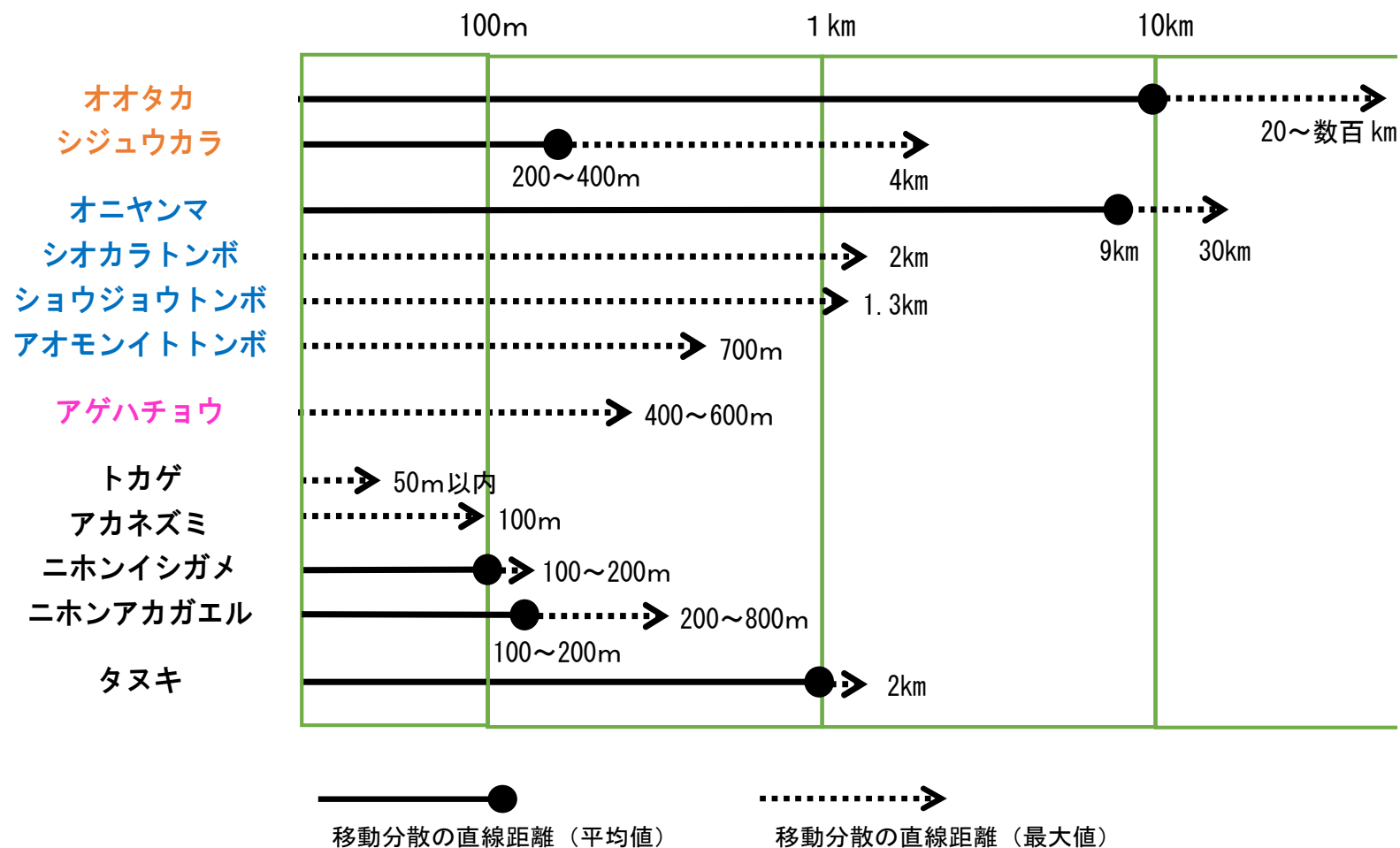
【参考】 動物の移動分散の距離

いきものは、どのくらいの距離を移動するのでしょうか？

シジュウカラなどは数 km 移動するようなので、鳥の場合は緑地の分断への対応力も比較的ありそうです。

普通のトンボは 1~2km、イトトンボは数百mおきに水辺があれば、“居場所” がつながります。

チョウの移動距離は数百m。まとまった規模の公園をつなぐように食草（幼虫のエサ）や蜜源（成虫のエサ）の“飛び石”が必要です。



出典：日本緑化工学会誌 37 巻第 1 号（2011）

「都市域のエコロジカルネットワーク計画における動物の移動分散の距離に関する考察」をもとに作成

トンボ編

名古屋の市街地公園：トンボが多い公園 と 少ない公園

「多い」、「少ない」を分けている要因について

1. 名古屋の市街地公園で確認できたトンボ類

名古屋市の沖積地に分布する9つの公園に生息するトンボ類を調べた。確認できたトンボ類は37種で、公園ごとに確認種を整理したのが表1である。

確認できたトンボ類が21種を超える「**トンボが多い公園**」は、鶴舞公園（25種）・白鳥庭園（24種）・呼続公園（22種）であった。

確認できたトンボが15種以下の「**トンボが少ない公園**」は、志賀公園（12種）・中村公園（12種）・道徳公園（11種）であった。

徳川園（20種）・大江川緑地（20種）・名城公園（18種）は、調査を重ねれば、確認種及び水辺環境から21種を超える「トンボが多い公園」に含まれると思われる。

確認したトンボ類が何ヶ所の公園で確認できたかを整理すると以下のようなになる。

7～9公園で確認できた種は「**水辺がある公園に、普通に生息する種**」、4～6公園で確認できた種は「**生息するために、何らかの環境要素が必要な種**」、1～3公園で確認できた種は「**名古屋市内の公園で、希少性が高い種**」と評価することができる。

9公園：アジアイトトンボ・ギンヤンマ・コシアキトンボ・ウスバキトンボ・シオカラトンボ

8公園：アオモンイトトンボ・アキアカネ・ショウジョウトンボ・オオシオカラトンボ

7公園：台湾ウチワヤンマ

水辺がある公園に、普通に生息する種

6公園：クロイトトンボ・クロスジギンヤンマ・オオヤマトンボ・チョウトンボ

5公園：リスアカネ・マユタテアカネ

4公園：オオアオイトトンボ・ウチワヤンマ・コノシメトンボ

生息するために、何らかの環境要素が必要な種

3公園：アオイトトンボ・モノサシトンボ・ムスジイトトンボ・マルタンヤンマ

2公園：ホソミオツネイトンボ・ハグロトンボ・オニヤンマ・ナツアカネ・ノシメトンボ・ネキトンボ・シオヤトンボ・ヨツボシトンボ

1公園：セスジイトトンボ・ネアカヨシヤンマ・カトリヤンマ・タカネトンボ・コフキトンボ・ハラビロトンボ

名古屋市内の公園で、希少性が高い種

表1 トンボ類確認種

科名	種名	確認地区数	鶴舞公園	白鳥庭園	呼続公園	徳川園	大江川緑地	名城公園	志賀公園	中村公園	道德公園
			昭和区	熱田区	南区	東区	南区	北区	北区	中村区	南区
10科	37種	9	25種	24種	22種	20種	20種	18種	12種	12種	11種
アイトトンボ	ホソミオツネイトンボ	2		○	○						
	アオイトトンボ	3	○		○						○
	オオアオイトトンボ	4	○	○	○		○				
カワトンボ	ハグロトンボ	2		○ a		○ b					
モノサシトンボ	モノサシトンボ	3	○		○	○					
イトトンボ	クロイトトンボ	6	○	○	○	○	○				○
	セスジイトトンボ	1				○					
	ムスジイトトンボ	3		○	○	○ c					
	アオモンイトトンボ	8	○	○	○	○	○	○		○	○
	アジアイトトンボ	9	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ヤンマ	ネアカヨシヤンマ	1					○				
	カトリヤンマ	1						○			
	マルタンヤンマ	3	○	○ a				○			
	ギンヤンマ	9	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	クロスジギンヤンマ	6	○	○	○	○	○			○	
サハイトンボ	ウチワヤンマ	4	○	○ a				○			
	タイワンウチワヤンマ	7	○	○	○	○				○	○
オニヤンマ	オニヤンマ	2	○		○						
エゾトンボ	タカネトンボ	1						○ c			
ヤマトトンボ	オオヤマトンボ	6	○	○		○		○	○		
トンボ	チョウトンボ	6	○	○	○	○	○	○			
	ナツアカネ	2		○	○						
	リスアカネ	5	○				○		○	○	
	ノシメトンボ	2	○	○ a							
	アキアカネ	8	○	○	○	○	○		○	○	○
	コノシメトンボ	4		○			○	○			
	マユタテアカネ	5	○		○	○	○	○			
	ネキトンボ	2				○	○				
	コシアキトンボ	9	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	コフキトンボ	1						○			
	ショウジョウトンボ	8	○	○	○	○	○	○	○		○
	ウスバキトンボ	9	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ハラビロトンボ	1					○				
	シオカラトンボ	9	○			○	○	○	○	○	○
	シオヤトンボ	2	○		○						
	オオシオカラトンボ	8	○	○	○	○	○	○	○		
	ヨツボシトンボ	2	○				○				

注1) 確認地区数

種名赤字：70%以上(7~9公園)で確認

種名青字：35%以上(4~6公園)で確認

種名黒字：35%未満(1~3公園)で確認

注2) 調査地区、調査期間

鶴舞公園 2017(4~10), 2018(4~10) /

白鳥庭園 2016(4~10), 2023(4~10) /

呼続公園 2014(5・9), 2017(4~10), 2018(4~9) /

徳川園 2018(4~11) / 大江川緑地 2019(4~10) /

名城公園 2015(4~10) / 志賀公園 2023(4~10) /

中村公園 2019(4~10) / 道德公園 2019(4~10)

注3) 文献等による記録

a: 飯田康博等による撮影記録(2017~2023)

b: 管理事務所による観察(2019)

c: 高崎保朗「名古屋の蜻蛉目総括, 今と昔」

なごやの生物多様性5: 107-111 (2018)

2. 「トンボが多い公園／少ない公園」を分けるポイント

ポイント1：水草

池に生育する浮葉植物・沈水植物・抽水植物の生育状況により、生息するトンボの種数や個体数に違いが出る。

水面に生育する浮葉植物や沈水植物への依存性が高い8種類のトンボについて、確認できた公園を表2に示した。

表2 浮葉植物・沈水植物・抽水植物への依存性が高いトンボ類8種を確認した公園

科名	種名	鶴舞公園	白鳥庭園	呼続公園	徳川園	大江川緑地	名城公園	志賀公園	中村公園	道徳公園
		昭和区	熱田区	南区	東区	南区	北区	北区	中村区	南区
		5	5	7	6	3	2	1	2	4
アオイトンボ [*]	ホソミオツネイトンボ		○	○						
	アオイトンボ	○		○						○
モノサシトンボ [*]	モノサシトンボ	○		○	○					
イトンボ [*]	クロイトンボ	○	○	○	○	○				○
	セスジイトンボ				○					
	ムスジイトンボ		○	○	○					
	アオモンイトンボ	○	○	○	○	○	○		○	○
	アジイトンボ	○	○	○	○	○	○	○	○	○

図1 浮葉植物・沈水植物・抽水植物への依存性が高いトンボ類からみた水域の環境



徳川園 (トンボ6種)



呼続公園 (トンボ7種)



道徳公園 (トンボ4種)



志賀公園 (トンボ1種)



中村公園 (トンボ2種)

水面に植物帯が多い

水面に植物帯がある

水面に植物帯がない

浮葉植物・沈水植物が多く生育する池を有する鶴舞公園・白鳥庭園・呼続公園・徳川園は5種以上のトンボが確認された。

一方、浮葉植物・沈水植物が少ない中村公園・志賀公園・名城公園・大江川緑地は3種以下の確認である。

道德公園の池は人工的な池であるが、水際の一部に植生帯を有していることから、アオイトトンボ、クロイトトンボなど4種が確認された。

図1に、浮葉植物・沈水植物・抽水植物への依存性が高い8種のトンボ類からみた水域の環境写真を示した。水域の植生帯の違いがわかると思う。

ポイント2：周囲の樹林

池の周囲に分布する樹林の状況により、生息するトンボの種数や個体数に違いが出る。

樹林地の存在への依存性が高い7種類のトンボについて、確認できた公園を表3に示した。

池に隣接して樹林地が存在する鶴舞公園・白鳥庭園・呼続公園・大江川緑地は4種以上のトンボが確認された。

公園内に樹林地を有する徳川園もホソミオツネトンボやオオアオイトトンボが確認される可能性は高いことから、実質的にこのグループに入ると考える。

一方、池周辺に疎林が分布する道德公園・中村公園・志賀公園・名城公園は2種以下の確認である。

幼虫期を水中で過ごすトンボ類だが、羽化後は陸域で過ごす。羽化後間もない未熟成虫は、発生した水域周辺の抽水植物帯や樹林地で過ごす。

成熟してからも、休息場等で樹林地を利用する。トンボ類のライフサイクルを考えると、水辺周辺にある樹林は生息のための重要な要素となる。

確認種の多い鶴舞公園・白鳥庭園・呼続公園・大江川緑地は、池に隣接して樹林地が分布しており、トンボ類にとって多様な生息空間を形成している。

一方、道德公園・中村公園・志賀公園・名城公園は、疎林であるため生息空間としての多様性が低く、生息するトンボ類も少なくなる。

図2に、樹林への依存性が高い7種のトンボ類からみた樹林の環境写真を示した。樹林としての生息空間の多様性の違いがわかると思う。

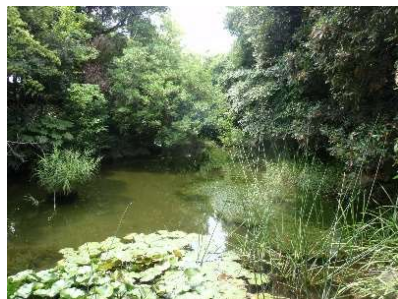
表3 樹林への依存が高いトンボ類7種と確認した公園

科名	種名	鶴舞公園	白鳥庭園	呼続公園	徳川園	大江川緑地	名城公園	志賀公園	中村公園	道德公園
		昭和区	熱田区	南区	東区	南区	北区	北区	中村区	南区
		5	5	5	3	4	2	1	2	0
アオイトトンボ	ホソミオツネトンボ		○	○						
	オオアオイトトンボ	○	○	○		○				
モノサシトンボ	モノサシトンボ	○		○	○					
ヤンマ	ネアカヨシヤンマ					○				
	マルタンヤンマ	○	○				○			
	クロスジギンヤンマ	○	○	○	○	○			○	
トンボ	オオシオカラトンボ	○	○	○	○	○	○	○	○	

図2 樹林への依存性が高いトンボ類からみた 池の周囲の環境



大江川緑地（トンボ4種）



白鳥庭園（トンボ5種）



呼続公園（トンボ5種）



道徳公園（トンボ0種）



中村公園（トンボ2種）

水域の周りに樹林地

水域の周りは疎林

3. 「トンボが少ない公園／多い公園」の特徴

トンボが少ない公園の特徴（道徳公園・中村公園・志賀公園）

- 池の水面に、浮葉植物や抽水植物がほとんど生育していない



道徳公園 2019.6.21

水面に、植物はほとんど生育していない。



中村公園 太閤池 2019.5.26

水面に、植物はほとんど生育していない。



志賀公園 2023.6.18

水面に、植物はほとんど生育していない。

➤ 池の水際は、コンクリートや石で固定されている



道徳公園 2019.5.12

池の周囲には、樹木がまばらに植栽されている。



中村公園 太閤池 2019.5.11

池の周囲には、樹木がまばらに植栽されている。



志賀公園 2023.6.18

池の周囲には、樹木がまばらに植栽されている。

➤ 池の周囲に、樹林地がない（樹木がまばらに植栽されている）



道徳公園 2019.9.7

水際は、コンクリートか石積みで固定されている。



中村公園 ハス池 2019.8.3

水際は、石積みで固定されている。



志賀公園 2023.8.19

水際は、石積みで固定されている。

トンボが多い公園の特徴（鶴舞公園・白鳥庭園・呼続公園）

➤ 浮葉植物や抽水植物が豊富な池がある



鶴舞公園 胡蝶ヶ池 2018.6.8

胡蝶ヶ池の水面には
浮葉植物、抽水植物が豊富に生育している。



白鳥庭園 清羽亭西の池 2016.6.11

清羽亭西の池には
浮葉植物が豊富に生育している。



呼続公園 曾池 2017.5.27

曾池の水面には
浮葉植物、沈水植物が豊富に生育している。

➤ 池の周囲に、樹林地が分布している



鶴舞公園 秋の池 2018.9.16

秋の池の周囲は樹林地、植栽樹木が分布している。
水面にはヨシが生育している。



白鳥庭園 下の池 2016.8.13

下の池は樹林に囲まれ、
水面には浮葉植物、抽水植物が生育している。



呼続公園 湧水周辺 2018.5.26

曾池の水源である湧水一帯には
樹林地が分布している。

4. 多様な“トンボの居場所”づくり in まちなか

いろいろなタイプの水辺環境（鶴舞公園）



鶴舞公園 胡蝶ヶ池

浮葉植物、抽水植物が生育する多様性の高い水辺環境。クロイトトンボ、ヨツボシトンボ、マルタンヤンマなど多くのトンボが生息。



鶴舞公園 秋の池

ヨシがまとまって生育しており、市内では希少なヨツボシトンボ、モノサシトンボが生息する。



鶴舞公園 中ノ島

広い開放水面には、ウチワヤンマ、シオカラトンボ、ショウジョウトンボなどが生息する。



鶴舞公園 流水環境

斜面樹林の脇を流れる流水。公園内で確認されるオニヤンマが生息すると思われる。

アカトンボ類が好む水辺環境（大江川緑地）



大江川緑地の水辺環境 2019.9.26/2019.10.20

2019年9月26日と10月20日の調査で、緑地内の水深の浅い池や水路周辺で、多数のアカアカネ、コノシメトンボ、マユタテアカネを確認した。

また、水面に産卵する多くのアカアカネを確認した。

名古屋市内でこれだけ多くのアカトンボ類を確認でき、アカアカネの群飛が観察できる場所は稀と思われる。

大江川緑地の池は、水生植物はあまり生育していないが、水深が浅く底に落葉が堆積していることから、アカアカネなどの産卵環境に適している。

野鳥編

水鳥観察記録 (2023年度は速報値)

白鳥庭園		年度	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	年度	徳川園	
		種数	5	5	7	8	6	6	7	8	8	10	8	8	9	10	8	6	種数		
留鳥	カルガモ		●	●	●	●	●	●	◎	●	●	●	●	●	●	●	●	●	*	◎	カルガモ
	カワウ		●	●	◎	◎	◎	◎	◎	●	◎	◎	*	◎	◎	●	*	●	◎	◎	カワウ
	カワセミ		○	○	●	*	○	●	○	○	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	カワセミ
	アオサギ		*		○	*	○	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	○	●	●	●			
	ダイサギ		*					*	*	○			*			○		*			
	コサギ		○	○	○	○	●	●	●	●	●	●	○	●	○	●	○	○			
	ゴイサギ				○					*	○	◎	◎								
イソシギ																*					
夏	ササゴイ		*		◎		*	◎	◎	*	*	◎	*	◎	*	◎		*		ササゴイ	
冬鳥	ユリカモメ		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
	マガモ		*		○	○	○					*	◎				*	●	○	マガモ	
	コガモ		*	*							○										
	キンクロハジロ					○			*		○				○	○					
	ホシハジロ							○	○				○	○		○	○	*			
	ハシビロガモ												○	○			*				
	オカヨシガモ																○				
ヒドリガモ									*					○	○			○	○	ヒドリガモ オナガガモ	

*カワセミは陸鳥ですが、水辺の鳥なので水鳥のページで取り扱いました。

< 留鳥 >

▶白鳥庭園では、カルガモ、カワウ、カワセミ、アオサギ、コサギが定着しています。

いずれも、市内の多くの水域で見かける種（市内主要緑地での出現率が6割以上）です。

ダイサギ、ゴイサギを見かける年もあります。

▶徳川園では、カワセミが冬季に定着しています。

< 夏鳥 >

▶白鳥庭園では、ササゴイの訪れる年が結構あります。

▶徳川園では、ササゴイが南へ帰る途上に一時立寄ったことがあります。

< 冬鳥 >

▶白鳥庭園では、ユリカモメが冬の常連です。

また時折、近隣の堀川や大夫堀に冬季滞在しているカモ類（マガモ、ホシハジロなど）も、白鳥庭園へやって来ます。

*2023年度は大夫堀の工事のため来訪せず。

▶徳川園では、マガモが留鳥化して子育ても行っていますが、近年は繁殖場所を変えたらしく、冬場のみの飛来となりました。

また時折、他のカモ類がマガモに混じって一緒に泳いでいることもあります。

名古屋の水鳥（タイプ分け）

2014 年度に名古屋市内で「繁殖期および越冬期」を過ごした水鳥は、下表の 62 種。 * 他に、「渡り途上に一時立ち寄り」した旅鳥 34 種あり。

これを、市内 52 の観察地での出現率によってタイプ分けしました。

* 全市の詳細は、 <https://monosashi758.org> > 報告書アーカイブ > 名古屋の野鳥マップ改訂版

白鳥庭園に定着している水鳥 は 6 種（ユリカモメを除く 5 種が、市内で身近なシティ派の留鳥）。

白鳥庭園に定着してはいるが確認実績あり が 10 種（サギ類 3 種、カモ類 7 種。カモ類は隣接する太夫堀や堀川からの出張）。

出現地区の割合	各所で見かける (河口部・河川・ため池)	河口には少ない (河川+ため池)	ため池には少ない (河口部+河川)	河口部が主体
シティ派 主要緑地（観察地）の 6 割以上で見かける	■カワウ ■アオサギ (サギ) ■コサギ (サギ) ■ダイサギ (サギ) ■カワセミ ■カイツブリ	■カルガモ (カモ) △コガモ (カモ) △マガモ (カモ)	■ : 留鳥 ○ : 夏鳥 △ : 冬鳥 ■ : 白鳥庭園に定着（ほぼ毎年見かける） △ : 白鳥庭園での 確認実績あり （過去にきたことがある） ■ : 白鳥庭園で渡り期等の 一時立ち寄り実績あり 灰色字：白鳥庭園での 確認実績なし * データは、「名古屋の野鳥2014（名古屋市緑政土木局）」による。	
中間派 同 2 割以上	■ゴイサギ (サギ) ■ケリ (チドリ) △ユリカモメ (カモ) △コアジサシ (カモ) △オオバン △カンムリカイツブリ	△ホシハジロ (カモ) △ハシビロガモ (カモ) △キンクロハジロ (カモ) △ヒドリガモ (カモ) △オカヨシガモ (カモ) △オナガガモ (カモ)	■バン ■イソシギ (シギ) ○ササゴイ (サギ) ○コチドリ (チドリ)	
深窓派 同 2 割未満	△ハジロカイツブリ △ヨシガモ (カモ) △ミコアイサ (カモ)	■イカルチドリ (チドリ) ■コブハクチョウ (カモ) ■ヒクイナ ○チュウサギ (サギ) ○アマサギ (サギ) ○ヨシゴイ (サギ) △クサシギ (シギ) △ヤマシギ (シギ) △カワアイサ (サギ) △オシドリ (サギ) △クイナ	△タシギ (シギ) △オオハシシギ (シギ) △タゲリ (チドリ) △セグロイカモメ (カモ)	■シロチドリ (チドリ) △ダイゼン (チドリ) △ハジロチドリ (チドリ) △ハマシギ (シギ) △ダイシャクシギ (シギ) △アオアシシギ (シギ) △セイタカシギ (シギ) △スズガモ (カモ) △ホオジロガモ (カモ) △ツクシガモ (カモ) △ウミアイサ (カモ) △トモエガモ (カモ) △アメリカコガモ (カモ) △アメリカヒドリ (カモ) △カモメ (カモ) △オオセグロカモメ (カモ) △シロカモメ (カモ) △スグロカモメ (カモ) △ウミネコ (カモ)

名古屋の陸鳥（タイプ分け）

2014年度に名古屋市内で「繁殖期および越冬期」を過ごした陸鳥78種、渡り途上の「一時立ち寄り」35種をタイプ分けしました。

これらのうち市内でよく見かける身近な鳥（シティ派ともいうべき20種）を太字で記しました。

白鳥庭園に定着している鳥は20種（シティ派のうちアオジを除く19種+キセキレイ）で、市内で身近な鳥の大半が白鳥庭園にも定着していると言えます。

白鳥庭園に定着してはいないが確認実績ありが11種。他に渡り期等の一時立ち寄りが13種です。

0	低所（地面・草・低木） 営巣	高所（樹上・樹洞・崖・人工物） 営巣	旅鳥等		
飛翔して捕食	■チュウヒ ○ヨタカ △ハイイロチュウヒ △コチョウゲンボウ △コミズク	■ミサゴ ■モズ ■チョウゲンボウ ■ツミ ■ハヤブサ ■オオタカ ○ツバメ △ハイタカ ○イワツバメ △ノスリ ○コシアカツバメ △トラフズク	ハンターたち フクロウ	ジュウイチ、ツツドリ カッコウ ハチクマ、サシバ コノハズク オオコノハズク アオバズク アマツバメ、ショウドウツバメ サンショウクイ オオムシクイ メボソムシクイ エゾムシクイ センダイムシクイ コヨシキリ、コムクドリ マミジロ、カラアカハラ	
樹上採食 (樹上・樹幹で採食、 枝からの飛びつきを 含む)	△ベニマンショ ○ホトギス	樹上好き ■ヒヨドリ △ウソ △マヒワ	■メジロ ■シジュウカラ ■コゲラ ■ヤマガラ ■エナガ △ヒガラ	◆アカゲラ ◆アオゲラ ◆アオバト ○サンコウチョウ ○キビタキ ○オオルリ	ヒレンジャク、キレンジャク クロツグミ、マミチャジナイ コマドリ、コルリ ノゴマ、ノビタキ エゾビタキ サメビタキ コサメビタキ ムギマキ オジロビタキ、カヤクグリ ニュウナイオスズメ コイカル
ヤブ採食	◆ウグイス ○ヤブサメ △ソウシチョウ				
地上採食 (草地・ヨシ原、 農地、裸地、林床)	■ヒバリ ■キジ ■コジュケイ ○オオヨシキリ ■ホオジロ ■ヤマドリ ○セッカ △ツグミ △アオジ △ルリビタキ △オオジュリオン △シラダカ △クロジ △ツリスガラ △アカハラ △タヒバリ △ビンズイ △ホオアカ △ミヤマホオジロ △ミンサザイ	地面好き	■スズメ ■ハシボソガラス ■ムクドリ ■ハシブトガラス ■ドバト ■キジバト ■ハクセキレイ ■カワラヒワ ■セグロセキレイ ■イソヒヨドリ △ジョウビタキ ◆キセキレイ △シロハラ △アリスイ △シメ △アトリ	地面・樹上往復 ◆カケス ◆トラツグミ ◆イカル	

太字：名古屋市内でよく見かける鳥
(主要緑地での出現率が6割以上)

- 留鳥
- ◆ 漂鳥
- 夏鳥
- △ 冬鳥
- 白鳥庭園に定着
- 白鳥庭園で過去に確認実績あり
- 渡り期等に一時立ち寄り実績あり
- 白鳥庭園での確認実績なし

	開けた 場所好き	中間的	樹林好き
■ 留鳥	■	■	■
◆ 漂鳥	◆	◆	◆
○ 夏鳥	○	○	○
△ 冬鳥	△	△	△

* データは「名古屋の野鳥2014（名古屋市緑政土木局）」による。

* タイプ分け（生息環境区分）は、下記を参考にした。

- ① モニタリングサイト1000で見てきた日本の森林性鳥類の分布状況
植田睦之ほか、日本鳥類学会誌60(1):19-34, 2011
- ② Javian Database 2012.1010版
<http://www.bird-research.jp> > Javian Database
- ③ 原色日本鳥類生態図鑑（中村登流・中村雅彦、保育社、1995）

自己紹介

<https://monosashi758.org>

モノサシなごや

都市の自然のモノサシ研究会 (モノサシなごや)



◆団体名： 都市の自然のモノサシ研究会

◆活動の趣旨：

都市にとって健康な植生活って何だろう？
身近な自然って、どう評価すればイイの？ どうつきあえばイイの？
そんなモヤモヤをスッキリさせる目安（モノサシ）が欲しい…!!
そんな思いから、2011年11月11日にスタートしました。

◆活動内容：

活動エリアは名古屋地区。
最近、白鳥庭園、徳川園という二つの日本庭園を主なフィールドにしています。
日本庭園（原風景のレフュージア）のチョウ、トンボ、野鳥の調査を通して、
都市/人工的な自然と生物多様性の関係を探っています。
毎年、活動成果を「報告書」にまとめています。

◆メンバー / モットー：

メンバーは、下記の混成部隊です。

- ①造園や生物調査が専門の者
- ②土木・建築など専門外ながら生物とかかわらざるをえない者
- ③素人なりに、身近な自然とのつきあい方に戸惑っている者

「いきもの目線とまちづくり目線、素人目線と玄人目線をつなぎたい！」がモットー。
「価値観やボキャブラリーを共有しない人にも伝わるメッセージ」を心がけています。

◆なごや環境大学の共育ゼミナール：

なごや環境大学（since 2005）は、
名古屋市が、市民・市民団体、企業、学校・大学、他の行政機関との協働でつくっている環境活動のネットワークです。「環境首都なごや」そして「持続可能な地球社会」を支える「人づくり、人の輪づくり」を進め、「行動する市民、協働する市民」として「共に育つ（共育）」ことをめざしています。

私たち（都市の自然のモノサシ研究会）は、2012年以来、なごや環境大学の「共育ゼミナール」として活動しています。



日本庭園で、身近ないきもの★再発見！

山・川・里・海…多様な地形を凝縮した日本庭園には、
多様ないきものがいます。

例えば名古屋の白鳥庭園では、34種のチョウ、24種のトンボを確認しています。

陸鳥は31種（繁殖期・越冬期）、水鳥は16種です。

そんな身近ないきものの生態を、図鑑やマップでお伝えします。



日本庭園のページ



チョウのページ



トンボのページ



野鳥のページ